

者ニ使用セシムルノ目的ナルトキハ之ヲ判取帳ナリト稱スル能ハス

(ロ) 金錢物品ノ交付ヲ證明スル爲メ作成スル帳簿ナリ

判取帳ハ金錢物品ノ交付ヲ證明スル爲メ作成使用スル一冊ノ帳簿ナリ而シテ普通金額又ハ品名ヲ記載シタル上署名捺印セシムルモノナルモ必スシモ印章ノ押捺ヲ必要トセス單ニ自署セシムルモ可ナリ

判取帳ハ通帳ト同シク營業ニ關スルコトヲ要セス故ニ非營業者ト雖モ判取帳ヲ作成シタルトキハ印紙ヲ貼用セサルヘカラス

買物帳ト稱シ雇人其ノ他ノ者ニ買物ヲ爲サシムル場合ノ監督方法トシテ各買物先ニテ其ノ品名、數量、代價ヲ記載シ捺印セシムル帳簿ヲ使用スルコトアリ之レニ對シテハ判取帳トシテ印紙ヲ貼用セシムヘキモノナリヤ否ヤ其ノ取扱區々ナリト雖トモ苟クモ金錢物品

買物帳

ノ移轉ヲ證明セシムル爲メ作成スル帳簿ナル以上ハ判取帳トシテ印紙ヲ貼用セシムヘキモノト解スルヲ正當ナリト信ス

第五章 課稅外ノ證書帳簿

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要

セス

- 一、官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
- 一、官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
- 一、國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
- 一、慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書
- 一、俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書

一、小切手

- 一、金高五圓未滿ノ爲替手形、約束手形
- 一、金高一圓未滿ノ物品切手
- 一、金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀
- 一、金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關ヒサル受取書
- 一、金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書

一、主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約

一、證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書

一、株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

一、手形ノ引受、保證

一、手形及證券ノ拒絕證書

一、手形及證券ノ複本、謄本

印紙税法ハ本條ニ於テ課稅外ノ證書、帳簿ヲ規定セルヲ以テ本稅檢査ニ當リテハ課稅物件ナリヤ否ヤヲ精密ニ調査スルノ必要アリ又納稅義務者ニアリテハ課稅物件ト課稅外ノ物件トヲ區別シテ印紙貼用ノ要否ヲ決スルノ必要アリ而シテ假令課稅外ノ證書、帳簿ニ對シ印紙ヲ貼用シタリトスルモ之カ返還ヲ求ムルノ途ナク反之印紙ノ貼用ヲ要スル證書、帳簿ニ對シテ相當印紙ヲ貼用セサルトキハ假令錯誤ニ出テタル場合ト雖モ法第十一條ニ問擬セラレ脫稅高ノ二十倍ニ相當スル科料又ハ罰金ヲ納付セサルヘカラス從テ課稅外ニ屬スル證書、帳簿ノ何タルヤヲ研究スルノ必要ヲ生ス  
以下節ヲ分チテ課稅外ノ證書、帳簿ヲ説明スヘシ

### 第一節 官廳又ハ公署ヨリ發スル 證書、帳簿

官廳ノ意

官廳トハ國家ノ委任ニヨリ國家ノ事務ヲ處理シ且ツ其ノ意思ヲ決定スルノ權限ヲ有スル機關ナリ故ニ官廳ハ人格ヲ有セス而シテ官廳ハ一人又ハ數人ヲ以テ組織セラレ一人ヲ以テ組織スル官廳ヲ單獨制ノ官廳ト稱ス例ヘハ稅務署、稅務監督局ノ如シ數人ヲ以テ組織スル官廳ハ合議制ノ官廳ト稱ス例ヘハ地方裁判所、控訴院、大審院等ノ裁判所ノ如シ

公署ノ意

公署トハ官廳ニ對スルモノニシテ地方公共團體ノ事務ヲ處理スル機關ヲ謂フ例ヘハ市町村及水利組合ノ如キ之ナリ

農會又ハ商業會議所ノ發スル證書、帳簿

農會法ニ依ル市町村農會及其ノ他ノ農會並ニ商業會議所ハ印紙税法ニ所謂公署ニ該當スルヤ否ヤニ付明治三十九年六月大藏省省議

集金郵便ニヨル受取書

決定アリ即チ印紙税法ニ所謂公署トハ特定ノ意義アル義ニシテ市町村其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ヲ指稱スルモノナリ從テ假令公法人ト雖モ農會又ハ商業會議所ノ如キハ該公署ニ該當セサルヲ以テ農會ヨリ發スル證書帳簿ニハ印紙ノ貼用ヲ要スト  
次ニ郵便官署ニ於テ公衆ヨリ集金郵便ノ委託ヲ受ケ支拂人ヨリ現金ノ取立ヲ爲スニ當リ別ニ受領證ヲ作成スルコトナク便宜委託者ノ提出ニ係ル受領證ニ郵便日附印及取扱者ノ印ヲ押捺シ當該郵便官署ニ於テ現金受領ノ證トシテ支拂人ニ交付スルモノハ官署ヨリ發スル證書ナリトシテ本號ニヨリ課稅外ニ措クヘシトノ說ト反對ニ課稅スヘシトノ二說アリ  
然レトモ郵便日附印及取扱者ノ印ヲ押捺シ現金受領ノ證トシテ支拂人ニ交付スルモノナルノ故ヲ以テ直ニ本號ニ該當スル證書ナリトシ課稅外ニ措クヘシト說クハ當ラス何トナレハ右郵便官署ハ單

ニ委託者ノ委託事務即チ集金事務ヲ處理スルニ過キサルモノナルト支拂人ニ交付シタル證書ハ委託者ノ作成ニ係ルモノナレハナリ依テ後說ヲ正當トス而シテ之カ納稅時期ハ郵便官署ニ委託シタル時トス大藏省省議決定亦然リ

### 第二節 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書帳簿

官廳及公署ノ意義ハ前述ノ如シ之等官署又ハ公署ニ奉職スル者ノ職務上發スル證書帳簿ニ對シテハ印紙稅ヲ課セス官廳又ハ公署ヨリ發スル證書帳簿ト官廳又ハ公署ニ奉職スル者ノ發スル證書帳簿トハ實際ニ於テ區別シ難キ場合往々アリト雖モ要スルニ獨立機關タル官公吏カ發スル證書帳簿ハ前者ニ該當シ其ノ補助機關例ヘハ稅務署長ニ非サル稅務署屬縣屬等ノ發スル證書帳

簿ハ後者即チ本節ニ該當スルモノト解ス而シテ免除セララルル證書帳簿ハ官公署奉職者ノ職務上發スルモノニ限ルヲ以テ職務外ノ證書帳簿ナルトキハ本節ニ該當セサルコト勿論ナリ

### 第三節 國庫金ノ取扱ニ關シ發

#### スル證書

國庫金ノ取扱ニ付テハ大正十年四月七日法律第四十二號會計法第五條ニ「政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム」トアリテ國庫金ハ日本銀行ノ本店支店及代理店出張所等ニ於テ取扱フモノナリ然レトモ印紙稅法ニ所謂國庫金ノ取扱トハ斯ル狹義ノモノニアラスシテ苟モ國庫金ナル以上ハ日本銀行以外ノ銀行ニ於テ取扱フ場合ニ於テモ亦課稅外トナスヘキモノナリ例ヘハ公債ノ募集ノ際ニ於テ私立銀行ノ取扱ヒタル國庫金ノ如キ之ナリ

第四節

慈善又ハ公共事業ノ爲ニス  
ル金員、物件ノ寄附ニ關シ人  
民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出  
スル證書

慈善又ハ公共事業ニ金圓ヲ寄附スルハ人性ノ美ニシテ大ニ獎勵ス  
ヘキモノナリ、故ニ斯ル申出ニ對シテハ印紙稅ヲ課スヘキモノニア  
ラストノ主旨ニ出テタルモノナルヘシ

第五節

俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、  
年金、恩給金、扶助料、旅費、及救  
恤金ノ受取書

受取書ニ對シテハ營業ニ關セサルモノハ之ニ課稅セストノ規定別

ニ存スルヲ以テ(本條第十號)本號規定ハ一見蛇足ノ感アルカ如キモ  
會社、商店等ノ支配人、番頭、手代、其他ノ使用人ノ受クル給料、手當金、賞  
與金、旅費等ハ或ハ營業ニ關スルモノニアラサルナキカノ疑ヲ生ス  
ルヲ以テ此疑問ヲ避クル爲メ特ニ明記シタルモノナラム

第六節 小切手

小切手トハ振出人カ第三者ヲシテ一定ノ金額ヲ支拂ハシムルコト  
ヲ約スル手形ニシテ其ノ性質頗ル爲替手形ト類似スルモ其ノ經濟  
上ノ效用ニ至リテハ兩者ノ間大ナル徑庭アリ即チ爲替手形ハ信用  
ノ具トシテ金融ノ爲ニ利用セラルルモノトス即チ振出人カ自カラ金  
トシテ金錢代用ノ具ニ供セラルルモノトス即チ銀行ヲシテ代リテ其ノ  
錢ノ受授ヲ爲スノ危險ト煩累トヲ避クル爲銀行ヲシテ代リテ其ノ  
受授ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ小切手ヲ用フルモノナリ而シテ小

切手ハ總テ一覽拂トス(商法五三二條)

小切手様式

第一號

小切手

一金何圓也

右金額東京市ニ於テ甲野乙太郎殿(又ハ其ノ指圖入若ハ此小切手受參人)ニ御支拂可被成候也

大正何年何月何日

東京市

乙野甲太郎

東京市

株式會社第一銀行殿

裏面記載ハ前ニ説明セル爲替手形、約束手形ト同一ナルヲ以テ省略ス

何故ニ爲替手形、約束手形ニ課稅ヲ爲シ小切手ヲ課稅外ニ置キタルカ惟フニ小切手ハ商業取引及一般銀行界ニ於テ支拂ノ具トシテ最

モ頻繁ニ行使セララルモノナルヲ以テ若シ之ニ課稅スルトキハ管ニ迷惑ヲ感スルノミナラス經濟社界ニ於ケル信用取引ヲ阻害スルコト大ナルヲ慮リタル結果ナラム

### 第七節 金高五圓未滿ノ爲替手形

#### 約束手形

爲替手形、約束手形ノ性質ハ前述ノ如シ而シテ爲替手形、約束手形ノ金高五圓未滿ノ小額ノモノニ對シテハ特ニ課稅外ニ置キタリ

### 第八節 金高一圓未滿ノ物品切手

物品切手ノ性質及效用ハ前ニ述ヘタルカ如シ而シテ假令物品切手ナリト雖モ金高一圓未滿ナルトキハ課稅外トス

第九節 金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀

運送契約及送狀ノ性質並効力ニ付テハ本編第四章第十九節ニ於テ説明シタルカ如シ而シテ課税外トシテ取扱フ送狀ハ

- (一) 運送契約ニ依ラサルモノ
  - (二) 運送契約ニ依ルモ記載金高五圓未滿ノモノ
  - (三) 運送契約ニ依ルモ記載金高ナキモノ
- 運送契約ニ依ラサル送狀トハ會社商店等ニ於テ自己ノ雇人又ハ日傭人ノ如キ者ヲシテ商品其ノ他ノ物品ヲ送付セシムル場合ニ其ノ品名等ヲ記載シテ送付ノ貨物ニ添付スル送狀ノ類ヲ指スモノニシテ記載金高ノ如何ヲ問ハス課税外ニ措ク、只注意スヘキハ假令運送

契約ニ依ラサル送狀ト雖モ若シ其書面カ代價ノ標準ヲ定メテ爲シタル商品ニ付其確定代價ヲ表示シテ決算ヲ證明スル爲作成セラレタルモノナル以上ハ送狀トシテ課税外ニ措クヘキモ賣買仕切書トシテ課税セサルヘカラサルコト勿論ナリトス故ニ検査ノ際ハ充分此點ニ留意シヨク其ノ證書ノ内容ニ付キ調査スルノ必要アリ又運送契約ニ依ル送狀ナリト雖モ金高記載ナキ以上ハ如何ニ價格ノ高キ貨物ナリトテ印紙税ヲ納付スルノ必要ナシ、然ルニ實際検査ニ當リテハ此等ノ送狀ニ對シ納税シアルヲ目撃ス是レ全ク無益ノコトニシテ假令課税外ノ送狀ニ納税シタリトテ還付ノ途ナキコトハ屢々述ヘタル如シ故ニ納税者ハ充分ニ注意スルノ必要アリ

### 第十節 金高五圓未滿若ハ金高記

載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書

課税外ノ受取書ハ

- (一) 營業ニ關セサルモノ
  - (二) 營業ニ關スルモノナルモ金高五圓未滿ノモノ
  - (三) 營業ニ關スルモノナルモ金高記載ナキモノ
- 營業ノ意義ニ付テハ既ニ述ヘタルカ如シ而シテ營業ニ關セサル受取書ナル以上ハ假令金高ノ記載アル場合ト雖モ總テ課税外トス從テ農家カ米穀蠶等ヲ賣渡シ其ノ代金ノ受取トシテ證書ヲ作成スルモ印紙税ヲ納ムルノ必要ナシ而シテ受取書カ營業ニ關スルモノナルヤ否ヤハ作成者ノ方面ヨリ見テ決定スヘキモノニシテ受取書ノ

無盡又ハ  
頼母子講  
ノ發取書  
及取書

相互保險  
會社ノ發  
取書

交付ヲ受クル者ハ營業者タルコトヲ要セス故ニ營業者カ官廳ニ宛テ交付スル爲作成シタル受取書及農家ニ日用品ヲ販賣シタル代金受取書ノ如キモノハ當然印紙ヲ貼用セサルヘカラス

疑問トシテ研究ヲ要スルハ

甲 無盡金ノ受取書ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要スルヤ否ヤ  
本問ハ之ヲ區分シテ考ヘサルヘカラス即チ

(イ) 無盡又ハ頼母子講ト稱シ隣人相集リ金錢ヲ醸出シテ抽籤ニヨリ講金ヲ交互ニ受クルカ如キハ勿論營業ニ關スルモノニアラサルヲ以テ斯ル場合ニ發スル受取書ニハ印紙ヲ貼用スルノ必要ナシ  
反之

(ロ) 無盡ヲ營業トスル會社カ會員ヨリ受領スル掛金ノ如キハ素ヨリ會社ノ營業行爲ナルヲ以テ印紙ヲ貼用セサルヘカラス  
乙 相互保險會社ノ發スル保險料ノ受取書ハ如何



相互保險トハ保險ニ付セムトスル者カ團結シテ相互的ニ保險ヲ爲ス場合ニ於ケル保險ニシテ營利ヲ目的トセス從テ營利保險ノ如ク保險營業者カ營利ノ目的ヲ以テ他人ト保險契約ヲ爲スモノニアラスシテ各關係者カ同時ニ保險者兼被保險者トナルモノナリ故ニ營業ニ關スルモノト看ルコト能ハサルヲ以テ其ノ保險料ノ受取書ニ對シテハ課稅外ト爲スヲ正當ナリト信ス而シテ之ニ對シテハ大藏省ノ省議既ニ決定アリ即チ相互保險會社ノ保險料ノ受取書ニ對シ印紙稅ノ課稅ヲ爲スヘキヤ否ヤノ農商務省ノ照會ニ對シ明治四十二年六月印紙貼用ヲ要セサル旨回答セリ

第 號

相互保險料領收證

一金

但大正 年 月 日ヨリ 月 日

右ハ 殿ノ相互保險料金 圓正ニ領收候也

大正 年 月 日

相互生命保險株式會社

主管

保險契約者

殿

丙 醫師辯護士ノ發スル受取書ニ對シテハ如何

本問ニ對シテハ從來取扱區々タリシノミナラス多少議論ノ存スル所ナリ然レトモ要スルニ醫師辯護士ノ行爲カ營業ナリヤ否ヤニ依リテ決スヘキ問題ナリト信ス何トナレハ受取證ニ印紙ノ貼用ヲ要スルハ營業ニ關スルモノノミナレハナリ

(イ) 醫師ニ對シテハ嘗テ行政裁判所ニ於テ免許取消處分ニ對スル件ニ關シ醫師ハ從來ノ慣行上之ヲ營業者ト看做ササルヲ以テ別段ノ規定ナキ以上ハ之ヲ營業者ニアラストスルヲ相當トスル旨ノ判決アリ

(ロ) 辯護士ニ付テハ辯護士法(二六年三月法律七號)第一條ニ「辯護士ハ當事者ノ委託ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フモノトス」云々第六條第二項ニ「辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス」又第三十一條以下ニヨル懲戒處分ヲ受クルコト

及營業税法(二九年三月法律三三號)第一條中ノ代理業中ニハ辯護士ヲ含マサル從來ノ取扱等ヨリ觀ルトキハ醫師ノ行爲ト等シク營業ニ關セサルモノナリト解セサルヘカラス故ニ兩者ニ對シテハ課税外トシテ取扱フヘキモノナリ大藏省々議決定亦然リ

大正八年八月一日各稅務監督局へ通牒

醫師及辯護士ノ發スル受取書ハ營業ニ關セサルモノトシテ自分印紙ノ貼用ヲ要セサルコトニ省議決定云々

### 第十一節

金高五圓未滿若ハ金高記

載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書

賣買仕切書ニシテ課税外ノモノハ

(一) 非營業者ニ對シテ發スルモノ

非營業者ノ意義

(二) 營業者ニ對シテ發スル仕切書ナルモ金高五圓未滿ノモノ

(三) 營業者ニ對シテ發スル仕切書ニシテ金高記載ナキモノ

非營業者トハ營業者ニ對スル語ニシテ直接消費高ニ對スルノ觀念ナリ而シテ吾人カ家庭用ノ衣服ヲ購入シタル場合ニ吳服商ヨリ交付スル仕切書ニ對シテハ印紙稅ノ納付ヲ要セサルハ疑ナキ所ナリ只研究ヲ要スルハ營業者カ其ノ營業品以外ノ物品ヲ購入スル場合例ヘハ吳服商ニ於テ店舖ヲ改築セムカ爲メ金物ヲ購入シタル際ニ交付ヲ受クル仕切書ニハ印紙稅ノ納付ヲ要スルヤ疑ノ存スル所ナリ何トナレハ商法第二百六十五條第二項ニ「商人ノ行爲ハ其ノ營業ノ爲ニスルモノト推定ス」トアリテ學者之ヲ附屬的商行爲ノ推定ト稱シ商人ノ行爲ハ總テ商行爲ナリトセリ此點ヨリ考フルトキハ例示ノ如キ場合モ商行爲ト看做サルルヲ以テ其ノ者ニ對シテ發スル仕切書ニハ印紙稅ヲ納付セサルヘカラサルカ如キモ法文ニ「非營業

附屬的商行爲

者ニ發スル仕切書」トアリテ營業者ノ營業品ニ對スルノ例外ヲ規定シ直接消費者ニ對シテ發スル仕切書ヲ課稅外ニ措キタルノ主旨ヨリ推考スルトキハ例示ノ如キ場合ハ之ヲ非營業者ニ發スル仕切書トシテ課稅外ニ措クヘキモノト解スルヲ可トス

### 第十一節 主タル債務ノ證書ニ併

#### 記シタル擔保契約

擔保契約

擔保契約トハ債權者ト保證人(物上保證人ヲ含ム)トノ契約ニヨリ成立シ其ノ效力ハ主タル債務者カ其ノ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其ノ履行ノ責ニ任スルニアリ(民法四四六條)而シテ擔保ニ對人擔保ト對物擔保トノ二アリ

對人擔保トハ保證契約カ債權者ト保證人トノ契約ニ依リテ成立シ主タル債務ト同一内容ヲ有スル債務ヲ負擔ス其ノ目的ハ主タル債

對物擔保

務ノ履行ヲ確保スルニアリ主タル債務ニ對シ之ヲ從タル債務ト謂フ

對物擔保トハ對人擔保ニ對スル語ニシテ物ヲ以テ債務ノ履行ヲ確保スル擔保ヲ云フ質權抵當權之ナリ尙對物擔保ニ債務者自カラ提供スル場合ト第三者ノ提供スル場合トアリ

質權

質權トハ他人ノ物又ハ財産權ヲ目的トシ之ヲ占有シ又ハ事實上支配シ債權ノ辨濟ヲ得サルトキハ其ノ物又ハ財産權ニ付他ノ債權者ニ先立チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルヲ云フ而シテ物ヲ目的トスル質權ヲ動産質又ハ不動産質ト稱シ財産權ヲ目的トスル質權ヲ權利質ト稱ス

抵當權

抵當權トハ不動産又ハ地上權永小作權ヲ目的トスル擔保物權ニシテ占有ヲ移ササル點ニ於テ質權ト異ナルモ其ノ效用ハ質權ト同シク自己ノ債權ノ辨濟ヲ得サルトキハ其物又ハ權利ニ付他ノ債權者

ニ先立チテ辨濟ヲ受クルヲ云フ

擔保契約書ニシテ課税外トナルハ主タル債權證書ニ併記シタル場合ニ限ル若シ併記セスシテ別ニ證書ヲ作成シタルトキハ或ハ契約證書トシテ法第二條ニヨリ課税セラレ或ハ動産ナルトキハ擔保品差入證書等トシテ課税セラル。而シテ主タル債務證書ニ併記シタル以上ハ假令第三者カ債權者トノ契約ニヨリ擔保シタル場合ト雖モ當然課税外トシテ取扱ハルルモノナリ

第十二節 證書ノ裏書及手形ノ裏

面ニ記載シタル受取書

茲ニ所謂證券中ニハ手形ヲ包含スルヤ否ヤニ付テハ少シク疑問アリ即チ法第五條第十六號又ハ第十七號ニ「手形及證券ノ拒絕證書」手形及證券ノ複本、謄本」ト明カニ區分記載キルヲ以テ印紙税法ハ證券

中ニ手形ヲ包含セシメサルノ主旨ナリト説ク者アリ一應ノ理由ナキニアラサルモ此ノ説ニ從ヒ若シ手形ヲ含マストセハ他ニ課稅外ト爲スノ規定ナキヲ以テ手形裏書ニ對シテハ相當印紙稅ヲ課セサルヘカラサル結果ヲ生ス然レトモ元來裏書ハ附屬的手形行爲即チ主タル手形ノ存在スルコトヲ前提トスル行爲ニシテ約束手形爲替手形ノ振出行爲トハ大ニ其ノ性質ヲ異ニス而シテ同シク附屬的手形行爲タル手形ノ引受、保證行爲ニ對シテ法第五條第十五號ニ於テ課稅外ト爲シ居ル以上獨リ裏書行爲ニ對シテノミ課稅スルノ根據ナシ尙裏書ハ主トシテ手形所有權ノ讓渡ヲ目的トスルモノナルニ手形ノ引受ハ手形所有權ノ讓渡ヲ目的トスルニ非スシテ唯手形ノ主タル債務者トナルノ行爲ニ過キササルヲ以テ手形引受ニ對シテハ特ニ課稅外ニ措キタルモノナリト唱フルモノナキニアラスト雖モ之レ皮相ノ見解ナリ何トナレハ手形ノ引受行爲ハ主タル債務者ト

ナルモノニシテ財產權ノ移轉ヲ約スル最モ著シキモノナリ然ルニ手形ノ引受ニ對シテハ課稅外トシ手形ノ裏書ニ對シテハ印紙稅ヲ課スルカ如キハ管ニ不權衡ナルノミナラス之カ爲經濟社會ニ於ケル信用取引ヲ阻碍スルコト甚シケレハナリ以上ノ理由ヲ以テ余ハ茲ニ所謂證券ノ中ニハ手形ハ當然包含セルモノト解ス

證券ノ意義

證券トハ權利ノ存在ヲ證明スル證書ヲ謂フモノニシテ所謂商業證券ノ全部ヲ意味シ手形、貨物引換證、預證券、質入證券、倉荷證券等一切ヲ含ム而シテ證券ニハ記名證券、無記名證券、指圖證券、指名又ハ持參人拂ノ證券アリ無記名證券ハ交付ノミニヨリテ證券ノ所有權ヲ移轉シ其他ノ證券ハ裏書ヲ以テ讓渡ノ要件ト爲ス

裏書ノ要件

(イ) 證券ノ謄本又ハ補箋ニ爲スコト  
(商法四五七條二八二條、五二九條、五三七條)

- (ロ) 被裏書人氏名又ハ商號(被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ稱スノ記)
  - (ハ) 裏書年月日
  - (ニ) 裏書人ノ署名
- 手形ノ裏面ニ記載シタル受取書トハ手形所持人カ手形金額ヲ受取タルコトヲ手形ノ裏面ニ記載シテ證明スルヲ云フ之レノ受取書ナリト雖モ例外トシテ課稅外ニ措キタルノナリ

裏面記載

裏書署名ノ様式

表書ノ金額乙野甲太郎殿 <small>(又ハ其指圖人)</small> ニ御支拂可被成候也 大正何年何月何日	甲野乙太郎
表書ノ金額丙山太郎殿 <small>(又ハ其指圖人)</small> ニ御拂可被成候 大正何年何月何日	乙野甲太郎
表書ノ金額領收候也 大正何年何月何日	丙山太郎

證券ノ裏書ニ記載スルヲ普通トス

手形ノ裏面ニ記載シタル受取書

株券ノ意

### 第十四節 株券債券ノ讓渡ヲ證明 スヘキ裏面記載

株券トハ株式會社、株式合資會社ノ株主權ヲ表彰スル證券ナリ而シテ普通記名式ナルモ全額ノ拂込ヲ了シタルトキハ株主ハ其ノ株券ヲ無記名ト爲スコトヲ得故ニ株券讓渡ニ於テ後者ハ當事者ノ意思ノ合致ト株券ノ引渡ノミニテ效力ヲ生スルモ前者ハ尙名義書換ノ手續ヲ要ス此場合ニ株券ノ裏面ニ其ノ讓渡ヲ記載スルモ印紙稅ヲ課セラルルコトナシ

債券ノ意

廣ク債券トハ株式會社、株式合資會社ノ社債券及其ノ他國庫債券勸業債券等一般ヲ包含ス而シテ債券ニモ亦記名式無記名式ノ二種アリ後者ノ讓渡ハ引渡ノミニテ足ルモ前者ハ名義ノ書換ヲ要ス此場合ニ於ケル債券ノ裏面記載ハ總テ印紙稅ヲ課セス

引受ノ意

### 第十五節 手形ノ引受、保證

手形ノ引受トハ爲替手形ノ引受人カ手形ノ文言ニ從ヒテ手形金額支拂ノ債務ヲ負擔スルコトヲ目的トスル附屬的手形行爲ヲ云フ而シテ手形ノ引受ハ附屬的手形行爲ナルヲ以テ主タル手形ノ存在ヲ必要トス

爲替手形ノ支拂人ハ振出人ノ委託ニ依リ直ニ債務者トナルモノニアラス支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲シ之ニ署名シテ始メテ主タル債務者トナルモノナリ故ニ爲替手形ノ支拂人カ手形ノ所持人ニ對シ手形金額ヲ支拂フ義務ヲ負フハ此引受行爲アリタル結果ニ外ナラス

手形ノ引受ハ爲替手形ニノミ存スル制度ニシテ約束手形、小切手ニハ斯ル制度ナシ是レ爲替手形カ信用ヲ基礎トシ支拂人タル第三者

參加引受  
ノ意義

ヲシテ支拂ハシムヘキ必要ヨリ生シタル所以ナリトス小切手モ亦  
 第三者ニ支拂ハシムヘキ手形ナレトモ小切手ハ支拂ノ用具タルト  
 同時ニ短期ノ滿期日ナルヲ以テ引受ノ必要ナシ商法ハ引受ノ外ニ  
 參加引受ナル制度ヲ認メタリ參加引受トハ支拂人カ單純ナル引受  
 ヲ爲ササル場合及引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケテ相當ノ擔保ヲ供セ  
 サル場合ニ於テ指定ノ擔保義務者ニ對スル擔保請求權ヲ消滅セシ  
 ムル爲ニ爲サルル一種ノ附屬的手形行爲ヲ云フ參加引受ハ手形ニ  
 署名シテ之ヲ爲スモノトス(商法五百三條)  
 印紙稅法ニ於テハ附屬的手形行爲タル引受保證、裏書ノ三者ニ付テ  
 ハ課稅外タルノ明文ヲ置キタルモ獨リ參加引受ニ對シテハ何等規  
 定ナシ然レトモ其ノ性質上之ニ對シテノミ課稅スヘキ主旨トハ認  
 メ難キヲ以テ結局茲ニ所謂引受ノ中ニハ參加引受ヲモ含ムモノト  
 解シテ誤ナカラム

證ノ意

手形ノ保證トハ主タル手形行爲ニ因リテ生シタル債務ヲ負擔スル  
 目的ヲ以テ爲ス從タル手形行爲ニシテ手形ノ謄本又ハ補箋ニ署名  
 スルニ依リテ爲スモノトス而シテ手形保證ハ其ノ性質上主タル手  
 形ノ存在ヲ必要トシ之ニ署名シテ爲スモノナルヲ以テ引受、裏書、參  
 加引受ト共ニ附屬的手形行爲ナリ手形保證ノ制度ハ爲替手形及約  
 束手形ニ適用アルモ小切手ニハ其ノ適用ナシ尤モ小切手ニ對シ通  
 常銀行カ支拂保證ヲ爲ス制度行ハルルモ商法ノ所謂保證ニアラス  
 ト解スルヲ通說トス  
 手形ノ保證ハ從タル手形行爲ナルヲ以テ本條第十二號ノ主タル債  
 務ニ併記シタル擔保契約ト同シク課稅外ノ取扱ヲナスモノナリ

### 第十六節 手形及證券ノ拒絕證書

拒絕證書トハ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ必要ナル行爲ヲ爲シ



タルコト及其ノ行爲ヲ證明スル唯一ノ要式證券ヲ謂フ而シテ拒絕證券ハ有價證券ニ非スシテ事實ヲ證明スル證券ニシテ手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ハ此證券ニ依ルニアラサレハ證明スルコトヲ得ス

拒絕證券ヲ證券ニ適用スルハ質入證券ノミニシテ(商法三六八條)質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證券ヲ作成スルニアラサレハ寄託物ノ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

拒絕證券ハ手形債務者又ハ支拂人カ引受ヲ爲ササル場合ニ於テ其ノ拒ミタル事實ヲ證明シ前者ニ對スル權利行使ノ要件トスルニ過キスシテ財産權ノ創設、移轉、變更、消滅ヲ證明スル證券ニアラス故ニ當然印紙稅ニ關係ナキカ如キモ手形上ノ權利ヲ行使スル要件トシテ必要缺クヘカラサル證券ナルヲ以テ間接ニ財産權ノ得喪ニ關ス

ル證券ト認めラレサルニアラス是レ特ニ本條ニ於テ課稅外トシタルモノナルヘシ

拒絕證券ハ手形又ハ質入證券ノ所持人ノ請求ニヨリ公證人又ハ執達吏作成ノ上之ニ署名捺印スルコトヲ要ス(商法五一、五四、五五條)

### 第十七節 手形及證券ノ複本謄本

複本ノ意

手形ノ複本トハ一箇ノ爲替手形ニ付振出人カ發行シタル數通ノ内容同一ナル證券ヲ謂フ複本タル數通ノ證券ハ何レモ原本ニシテ其ノ間ニ正副主從ノ區別アルコトナシ然レトモ手形行爲ハ一箇ナルヲ以テ複本ヲ發行シタル場合ハ其ノ各通ハ獨立シテ手形タル效力ヲ有スルモノニシテ各所持人ハ其ノ一通ヲ以テ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ル點ヨリ見テ各複本ニ對シ印紙稅ヲ課スルヲ可トスヘキニ似タレトモ元來手形行爲夫レ自體ハ一箇ニシテ普通一通

ニ對シ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其ノ效力ヲ失フモノナルヲ以テ各通ニ對シ印紙税ヲ課スルハ穩當ナラスト認メタルカ爲メナルヘシ

義  
贖本ノ意

贖本ハ復本ト異ナリ所持人カ任意ニ作成スル手形ノ寫ヲ謂フ而シテ手形ノ所持人カ贖本ヲ作成シタリトテ直チニ手形上ノ效力ヲ生スルモノニアラスシテ之ニ裏書シテ始メテ手形上ノ效力ヲ生スルモノトス故ニ之ニ裏書シタルトキニ於テ始メテ一箇ノ手形トシテ讓渡スルコトヲ得此點ヨリ觀テ贖本ニ對シテモ亦課税スヘキニ似タレトモ贖本ト原本トハ別箇ノ手形ニアラサルヲ以テ復本ト等シク課税外ニ措キタルモノナルヘシ  
復本及贖本ハ手形引受ノ爲メ特ニ認メタル制度ナルヲ以テ引受ノ制度ナキ約束手形及小切手ニハ適用ナシ  
證券ノ復本、贖本ハ手形ノ復本、贖本ト同一ノ理ヲ以テ決シ得ヘシ

船荷證券ヲ數通發行シタル場合ノ取扱ニ付テハ特ニ省議決定セリ

明治三十二年八月(主税局通牒)

商法第六百二十條ニ依リ船荷證券數通ヲ發行交付スル場合ハ同一ノ權利關係ヲ證明スルモノナルヲ以テ其内ノ一通ニ相當印紙ヲ貼用スヘキヤ將又各通ニ印紙ヲ貼用セシムヘキヤニ付キ横濱管理局長ノ照會ニ對シ  
前段見込ノ通ト回答セリ

### 第十八節

印紙税法以外ノ法律又

ハ規則ニ依リ特ニ課税

外ニ置キタルモノ

(イ) 郵便貯金法(三八、二、一五法)  
(律第二三號)

第十七條郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙税ヲ課セス

- (ロ) 郵便爲替法(三三、三三、一二法)  
(律三五、五五號)  
 第六條郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙税ヲ課セス
- (ハ) 間接國稅犯罪者處分法(三三、三三、一六法)  
(律第六七號)  
 第七條第二項差押物件ノ保管ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- (ニ) 國犯徵收法(三〇、三三、一六法)  
(律第二一號)  
 第二十二條第二項差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス
- (ホ) 貯蓄債券法(三七、三三、法律)  
(第一八號)  
 第六條貯蓄債券及其引換證ニハ印紙税ヲ免除ス
- (ヘ) 保管金規則(二三、一號法)  
(律第一號)  
 第四條保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス
- (ト) 預金規則(一八、五布告)  
(第一三號)  
 第八條預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

第八條預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス  
(チ) 簡易生命保險法(大正五、七法)  
(律第四二號)

第三十二條簡易生命保險ニ關スル書類ニハ印紙税ヲ課セス  
 右ノ内保管金規則第四條ノ規定及預金規則第八條ノ規定ハ明治三十二年印紙税法發布ト同時ニ證券印税規則ヲ廢止セラレタル結果トシテ自然消滅ニ歸シタルカ如キ疑ナキニアラサルモ元來此等ノ證書ハ他ノ普通ノ證書ト其ノ性質ヲ異ニスル爲特ニ證券印税ヲ免除セラレタルモノナルカ故ニ其ノ證券印税ト異名同質ナル印紙税ニ付テハ亦免除セラルヘキ趣旨ト解スヘキモノトス、故ニ例ヘハ契約保證金等歳入歳出外現金ヲ拂戻ス場合ニ於テ商人ヨリ提出スル領收書ニ對シテハ保管金規則第四條規定ノ存續ヲ認メ印紙貼用ヲ要セサルモノト認ム

### 第六章 納税時期

印紙税ノ行爲税タルコトハ第一編第三章ニ於テ説明シタルカ如シ  
從テ其ノ納税義務ハ法定ノ證書帳簿ノ作成アリテ始メテ發生スル  
モノニシテ單ニ財產權ニ關スル創設、移轉、變更等ノ意思表示アリタ  
ルノミニテハ未タ課税ノ時期ニ到達セリト謂フヲ得ス

作成ノ意

税法上證書帳簿ノ作成トハ所謂調製ト異ナリ相當ノ要件ヲ記載シ  
當事者之ニ署名(記名又ハ捺印)シテ財產權ニ關スル法律事項ヲ目的  
トスル證據ニ使用スルヲ云フ故ニ例ヘハ借用證書ヲ調製シタリト  
スルモ之ヲ債權者ニ交付セス自己ニ於テ所持スル間ハ未タ以テ税  
法ノ所謂作成ト謂フヲ得ス又株式ヲ證明スル一定ノ證書ヲ調製ヒ  
シノミニテ取締役之ニ署名セサルトキハ未タ法第四條ニ於ケル株  
券ナリトシテ課税スヘキモノニアラス通帳ノ如キ帳簿ニアリテモ

作成ト區別

亦然リ即チ一定ノ紙片ヲ連續シ其表面ニ標題交付先及年月日等ヲ  
記載セハ形式上既ニ帳簿ノ形體ヲ爲スト雖モ之亦印紙税法ノ所謂  
作成ト謂フヲ得ス少クトモ第一回ノ記入ヲ爲シ取引先ニ交付スル  
時ナラサルヘカラス  
故ニ余ハ證書帳簿ノ「調製」ト「作成」トヲ區別シ「調製」トハ單純ナル執事  
ヲ意味シ「作成」トハ之ヲ法律事項ノ證據ニ使用スルモノト解ス

### 第七章 納税義務者

印紙税ノ納税義務者ハ證書帳簿ノ作成者ナリ(第一條)

作成者ノ

作成者トハ證書帳簿ノ執筆者ニアラス證書帳簿ヲ法律事項ノ證據  
トシテ使用シ得ル當事者ヲ謂フ例ヘハ通帳ニアリテハ物ノ賣買ニ  
關スルトキハ賣主タル營業者ナリ又契約書ニアリテハ契約ノ當事  
者共ニ證書ノ作成者ナリ

家族其他  
ノ雇人カ  
履行シタ  
ル場合ノ  
責任

印紙税ノ納税義務者ハ證書帳簿ノ作成者タルコトハ法第一條ニ明  
 カナル所ナルモ實際ニ於テ證書帳簿ノ當事者ト認メラルモノニ  
 シテ其作成事實ヲ知ラサルコトアリ例ヘハ營業主カ旅行不在中ニ  
 家族其他雇人カ營業主名義ノ受取書ヲ作成シテ相手方ニ交付シタ  
 ルトキノ如キ場合ハ營業主ニ納税義務アリヤ頗ル疑問トスル所ナ  
 リ此點ニ付テハ酒造税法醬油税則其他織物消費税法砂糖消費税法  
 等ニアリテハ家族其他雇人カ營業ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ營  
 業主ヲ處罰スルノ規定アルヲ以テ其納税義務モ亦營業主ニアルコ  
 トヲ窺知スルニ足ルモ本法ニ於テハ斯ル規定ナキヲ以テ其納税義  
 務者ハ實際ノ執筆者ニアラサルヤトノ疑ヲ生ス  
 然レトモ其營業範圍ニ屬スル以上執筆者タル家族雇人ニ斯ル納税  
 義務アリト斷スルノ根據ナキヲ以テ苟モ營業主ノ營業範圍ニ屬ス  
 ルトキハ營業者ニ納税義務アリト解セサルヘカラス然レトモ證書

偽造手形  
ニ對スル  
責任

面ノ當事者カ總テ納税義務アリト斷スルハ早計ナリ他人ノ名ヲ偽  
 リテ契約證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ名義其ノモノハ證書ノ當  
 事者ノ如ク見ユルモ實際ハ該證書ニ何等ノ關係アルナシ從テ納税  
 義務ノ生スル理由ナシ  
 茲ニ問題トナルハ偽造手形ナルヲ以テ特ニ一言スヘシ偽造手形ト  
 ハ署名ノ偽造ニシテ換言セハ他人ノ名義ヲ偽リテ手形行爲ヲ爲ス  
 モノニシテ例ヘハ他人ノ署名ヲ偽リテ手形ノ振出裏書引受ヲ爲シ  
 タルカ如キ之ナリ而シテ偽造手形ノ效力ニ付テハ  
 (一) 偽造者ハ自己ノ名義ヲ以テ手形行爲ヲ爲シタルモノニアラサレ  
 ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ  
 (二) 被偽造者ハ手形ノ名義人ナルモ手形行爲者ニ非サルヲ以テ手形  
 上ノ責任ヲ負フコトナシ  
 (三) 偽造手形ニ署名シテ真正ニ引受裏書等ノ如キ手形行爲ヲ爲シタ

ル者ハ其文言ニ從ヒテ手形上ノ責任ヲ負フ商法四百三十七條是レ  
 手形行爲ノ獨立ヨリ生スル結果ナリ  
 茲ニ於テ偽造手形ノ印紙稅納稅義務者ハ何人ナリヤノ問題ヲ生ス  
 偽造者ハ自己ノ名義ヲ以テ手形行爲ヲ爲シタル者ニアラサルヲ以  
 テ印紙稅ノ納稅義務ナシ又被偽造者モ同様手形行爲カ虛偽ナルヲ  
 以テ納稅ノ義務ナキハ論ナシ次ニ之ニ眞正ナル手形行爲引受裏書  
 等ヲ爲シタルモノハ商法四百三十七條ニヨリ其文言ニ從ヒ手形上  
 ノ責任ヲ負フ而シテ其手形行爲ハ財產權ノ移轉又ハ消滅ヲ證明ス  
 ルモノナルヲ以テ印紙稅法ノ原則ヨリ論スルトキハ假令手形其ノ  
 モノハ偽造ナリトスルモ當然印紙稅ヲ納付スヘキモノナリ然レト  
 モ特ニ法第五條ヲ以テ證券ノ裏書手形ノ裏面ニ記載シタル受取書  
 手形ノ引受保證ニ對シテハ課稅セサル旨ノ例外規定アルヲ以テ結  
 局此點ニ於テ之亦納稅スルノ要ナシ從テ偽造手形ニハ納稅義務者

ノ二人以上  
 官廳ト共  
 同シテ作  
 成シタル  
 證書

ナシト云ハサルヘカラス  
 證書帳簿ノ作成者カ二人以上ナルトキハ其納稅義務ハ連帶ナルコ  
 ト勿論ナルモ若シ當事者ノ一方カ官廳ナル場合ハ之ヲ連帶責任ト  
 スヘキヤ否ヤ聊カ疑問トセサルヲ得ス例ヘハ官廳ト個人トノ間ニ  
 契約ヲ爲シタル場合作成スル契約書ニ對シテハ二通共ニ印紙ヲ貼  
 用スヘキモノナリヤ否ヤ元來契約書ハ契約者共同ニテ作成スルモ  
 ノナルヲ以テ假令個人カ所持スル分ト雖モ之ヲ以テ官廳ヨリ發シ  
 タル證書ト謂フヲ得サルヲ以テ共同責任トスヘキカ如キモ從來ノ  
 取扱トシテハ契約書二通ノ内官廳ニ領置スル分ノミ印紙ヲ貼用セ  
 シメ個人ノ所持スル分ニ對シテハ印紙ヲ貼用セサル取扱ナリ右取  
 扱ハ要スルニ個人ノ所持スル分ハ官廳ヨリ發シタル證書ト看做ス  
 結果ナラム

## 第八章 納稅手續

第六條 印紙稅ハ證書帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

### 第一節 印紙貼用

印紙稅ノ納付ハ本條ニ明記スル如ク證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用シテ爲スモノトス是レ納稅手續カ他稅ト著シク異ナル點ナリ即チ消費稅ノ多クハ課稅物件ノ數量ヲ査定シ政府自ラ稅金ヲ調定スルノ制度ナルモ本稅ニアリテハ斯ル手續ヲ爲サス法定ノ證書帳簿ノ作成者ニ自發的ニ其貼用ヲ命スルモノトス  
印紙ノ貼付方法ニ付テハ明治十七年五月大藏省告示第五十六號ヲ

貼用方法

以テ貼用スヘキ個所ヲ指示シタリシモ現行法ニアリテハ貼付方法ニ關シ何等規定ノ存スル所ナキヲ以テ何レノ箇所ニ貼用スルモ其ノ效力ニ何等影響ナキモ普通證書ニアリテハ標目ノ右方ノ上部ニ「帳簿」ニアリテハ其首部ニ貼付スルヲ便宜トス

### 第二節 貼用スヘキ印紙ノ種類

印紙稅施行當時ニ在リテハ證書帳簿ニ貼用スヘキ印紙ハ特別ナル證券印紙ヲ使用セシモ明治三十一年七月勅令第四百十號ヲ以テ一定ノ收入印紙ヲ使用セシムルコトトセリ其後大正九年六月勅令第四百九十號ヲ以テ從來ノ規則ヲ廢止シ新ニ印紙ヲ以テスル歲入金納付ニ關スル件ヲ公布セリ右勅令第二條ニ依ルトキハ法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歲入金ヲ納ムルトキハ收入印紙ヲ用ウヘシトアルヲ以テ租稅ノ一タル印紙稅ヲ納付スル爲貼用スル印

紙ハ收入印紙ナルコト明カナリ然ルニ納稅者中或ハ郵便切手ヲ貼用シテ之ニ代ユルモノアリ誤解モ亦甚タシト謂フヘシ然シテ斯ル場合如何ニ之ヲ解決スヘキカ政府ノ收入上ヨリ見ルトキハ何等損害ナシト雖モ之ヲ稅法上ヨリ見ルトキハ無印紙證書帳簿ノ使用ト認ムルノ外ナシ何トナレハ印紙稅法ハ前述ノ如ク證書帳簿ニ收入印紙ノ貼用ヲ強要セルヲ以テ郵便切手代用ヲ認ムルニ由ナケレハナリ從テ納稅者ハ斯ル誤解ニ依リ處分セラルルカ如キコトナキ様注意スルコト肝要ナリ

### 第三節 稅印押捺

稅印押捺トハ印紙貼用ニ代ハルヘキ便宜ノ手續ニシテ印紙稅ニ相當スル現金ヲ便宜ノ稅務署ニ納付シ其稅金ノ領收書又ハ納稅濟證明書ト稅印ノ押捺ヲ受クヘキ用紙トヲ左ノ場所ニ提出シテ稅印ノ

押捺ヲ受クルコトヲ得從テ此方法ニ依ルトキハ賣買仕切書受取書及株券等ヲ常ニ多數使用スル向ニ至リテハ一々之ニ印紙ヲ貼用スルノ手數ヲ省略シ得ルノミナラス消印スルノ煩累ナシ

稅印押捺ノ場所(明治三十二年三月大藏省令五號)

東京、大阪、札幌、仙臺、名古屋、廣島、熊本ノ各稅務監督局又ハ函館、小樽、上京、橫濱、神戸、長崎、金澤、前橋、川越、宇都宮、甲府、大津、静岡、濱松、姫路、岡山、佐賀、長野、新潟、足利、四日市(三重縣)、津、岐阜、盛岡、福島、青森、秋田、山形、酒田、米澤、福井、富山、高岡、尾道、下關、松江、高松、松山、德島、高知、福岡、小倉、大分、鹿兒島ノ各稅務署

稅印押捺請求者用紙ノ返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手ヲ併セ提出スルトキハ稅務監督局又ハ稅務署ハ稅印押捺ノ上郵便ヲ以テ用紙ノ返送ヲ爲スノ便宜アリ  
又稅印押捺ヲ受ケタル證書帳簿調製完了前損傷又ハ汚染シタルモ



ノアルトキハ一口十枚以上ニ限り代用紙ヲ提出シテ更ニ税印ノ押捺ヲ請求スルコトヲ得但シ損傷汚染シタル用紙ノ税印ハ抹消スルモノトス

以上ノ如ク税印押捺ハ官民相互非常ニ便利ニシテ商取引ノ頻繁ナル今日ニ於テハ最モ其必要ヲ感スルニ未タ之ヲ利用スルモノ少ナキハ該制度ノ存在ヲ知ラサルモノ多キ結果ト認メラルルヲ以テ是等賣買仕切書受取書等多數使用スル者ニ對シ適當ノ方法ヲ以テ宣傳スルト共ニ一面本税脱税防止ノ一助タラシムルノ要アルヘシ

#### 第四節 納税ノ單位

證書ニアリテハ一通毎ニ帳簿ニアリテハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ法定ノ税額ヲ納付セサル可ラス(法第四條)

證書ノ一通トハ紙片ノ一葉ヲ意味スルニアラスシテ一ノ法律事項

一通ノ意

ヲ意味スルモノナリ故ニ假令一紙片ナリト雖モ數回數事項ヲ記載シタルトキハ元ヨリ一通ノ證書ト云フコト能ハサルト共ニ一通ノ證書ニ二人以上ノ相手方ヲ連記シテ交付シタレハトテ數通ノ證書ナリト云フコト能ハス何トナレハ此等ハ一ノ法律事項ナレハナリ作成者ノ方面ヨリ見ルモ亦然リ即チ作成者二人以上ノ場合ト雖モ法律事項カーナルトキハ一通ノ證書ナリト解シテ可ナリ要ハ證書ノ一通ナリヤ數通ナリヤハ客觀的ニ法律事項カ單一ナルヤ否ヤニ依ツテ決セサルヘカラス

帳簿ハ連續使用ノ目的ヲ以テ普通紙片ヲ連綴シテ作成シタルモノナルモ紙片ノ連綴ヲ以テ必スシモ其要素トセス一紙片ヲ數回連續使用スルトキハ帳簿ト見テ可ナリ

又連續使用ハ必スシモ帳簿ノ要素ニアラス何トナレハ帳簿ハ連續使用ノ目的ヲ以テ作成スルモノナレハナリ故ニ帳簿タル形體ヲ爲

帳簿ノ意

シ連續使用ノ目的ヲ以テ附込ミタル以上假令一回ノ附込ニテモ帳簿ト見テ課稅セサルヘカラス  
一年以内ノ附込トハ其ノ帳簿ノ連續使用カ一年以内ヲ意味スルモノニシテ其ノ附込ノ數及金額等ニ關係ナキモノトス

### 第五節 貼用印紙ノ消印

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

本條ハ貼用印紙消印ノ方法ヲ規定シタルモノナリ印紙稅ハ單純ニ印紙ヲ貼用シタルノミニテハ完全ニ納稅手續ヲ了シタルモノト云フコト能ハス必スヤ其證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ作成者自身自己ノ印章或ハ署名ヲ以テ判明ニ消印セサルヘカラス

✓ 印章ノ意

署名ノ意

若シ之ニ反スルトキハ法第十三條ニヨリテ科料ノ制裁アリ  
印章ニ付テハ何等制限ナキヲ以テ實印ハ勿論認印ニテモ可ナリ唯疑ハシキハ營業用ニ使用スルノ目的ヲ以テ仕切判又ハ消印等ノ文字ヲ調刻シタル印判ハ本條ノ所謂印章ニ該當スルヤ否ヤノ點ニ在リ元ヨリ嚴格ナル意義ニ於テハ是等印判ハ自己ヲ表彰スルモノニアラスト雖モ印紙ノ消印ハ印紙ノ再貼用ヲ防止スルノ目的ニ出テタルモノナルヲ以テ敢テ嚴格ニ解スルノ必要ナシト信ス故ニ此等ノモノモ亦印紙ノ消印ニ使用シ得ルモノト解ス  
「署名」トハ自己ノ氏名又ハ商號ヲ自署スルヲ謂フ自署ニアラサレハ署名ニアラス但シ明治三十三年法律第十七號ヲ以テ「商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得」トアルヲ以テ營業ニ關シテ發行スル證書帳簿ノ如キハ之ヲ適用シテ可ナリ

## 第六節 法定額以上ノ印紙貼用

印紙ヲ法定額以上ニ貼用シタル場合ニ於テハ如何ニ取扱フヘキモノナリヤ印紙税ニアリテモ法定額以上ノ印紙ヲ貼用シタルトキハ之ヲ以テ印紙税ノ過納ナリト稱スルコトヲ得ム從テ超過分ニ對シ政府ハ納税者ノ請求ニヨリテ返還スルノ要アリヤ否ヤ税法其ノ他ノ法規ニ何等ノ規定ナシ即チ國稅徵收法第四條ノ五ニ「同年ノ地租營業稅所得稅醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得」ト規定シ過納整理方法ヲ明カニセルニ拘ラス印紙税ノ如キ印紙ヲ以テ納付スヘキ稅目ニ付キ何等ノ規定ナキニ徵スル時ハ之ヲ還付セサルノ主旨ナリト解セサルヘカラス故ニ納税者ハ充分ノ注意ヲ以テ其稅額ヲ算出シ過誤ナキヲ期セサ

ルヘカラス

特ニ注意ヲ要スルハ法第二條該當ノ證書ナリ茲ニ記載金高五拾圓ノ契約證書ヲ作成シタリト假定セムカ法第二條ノ本文ノミニヨルトキハ記載金高ノ一萬分ノ五ナルヲ以テ印紙稅額二百五十圓トナルモ同法但書ニヨリ五十圓ニ止ムルモノナルヲ以テ結局假定ノ證書ハ五十圓ノ印紙ニテ足ルコトニ注意セサル可ラス

## 第九章 繼續使用ノ帳簿

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

一冊ノ帳簿ヲ一年以上引續キ使用スルトキハ如何ニ取扱フヘキカ帳簿ノ課稅單位ハ第四條ニ示ス如ク一冊一年以内ノ附込ニ對シ定額稅ヲ課ス然レトモ實際ニ於テ帳簿其ノモノハ一冊ナルモ引續キ

數年間使用スル場合ハ往々目撃スル所ナリ故ニ法ハ一ノ擬制ヲ用ヒ別帳ヲ調製シタルモノト看做スヘキ旨ヲ明カニセリ故ニ通帳判取帳ニアリテハ一年間附込終了後尙餘白アルトキハ其帳簿ノ中間ニ定額ノ印紙ヲ貼用シテ引繼使用スルコトヲ得斯ノ如ク順次數年數十年ニ及ホスモ制限ナシ

### 第十章 帳簿ノ相續

帳簿ハ相續人ニ於テ引續使用スルコトヲ得ルヤ營業讓渡及會社合併等ノ場合ト共ニ疑問ノ存スル所ナリ本問ニ於テハ法律ニ何等規定ナキヲ以テ相續ノ本質及營業讓渡會社合併ノ性質ヨリシテ之ヲ決セサルヘカラス  
相續ノ場合ハ相續人カ被相續人ノ權利義務ヲ包括シテ繼承スル(民法九百八十六條)ヲ以テ相續人ハ其ノ權利義務ノ關係ニ於テ被相續

相續

營業讓渡  
會社ノ合併

人ト同一ナリ故ニ帳簿ニアリテモ其ノ有効期間引續キ使用スルコトヲ得ト解セサルヘカラス營業讓渡ニアリテハ營業夫自體ハ變更セサルモ主體ノ變更ヲ生ス之ヲ相續ト同一ニ解スルハ當ラス故ニ營業讓渡ニアリテハ更ニ印紙ヲ貼用シテ使用スヘキモノト解ス  
會社ノ合併ニアリテハ如何會社合併ニ付テハ商法第八十二條ニ「合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ストアルヲ以テ相續ノ場合ト同一ニ解シ前會社ノ使用シタル帳簿ノ有効期間中尙引續キ使用シ得ルモノト解ス  
一年以内ノ計算ハ日ヲ以テ計算スヘキモノトス初日ハ附込ノ日ナリ從テ其翌年附込ノ日ニ相當スル前日ヲ以テ滿了ス

### 第十一章 外國貨幣ヲ記載シタル證書

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ  
 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載シタルトキハ本條ニ依リ其貨幣ヲ内國貨幣ニ換算シテ其ノ金高ヲ定メサル可ラス  
 而シテ其ノ換算ノ時期ハ納稅義務ノ生シタル特即チ作成ノ時ナリ  
 民法四百三條ハ外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債權者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟スルコトヲ得ト規定ス故ニ若シ當事者間ニ於テ契約書ヲ作成シ外國ノ貨幣ヲ以テ記載金高トシタルトキハ當時ノ爲替相場ニ依リ日本通貨ニ換算シタルモノヲ以テ記載金高トスヘキモノトス爲替相場トハ甲乙兩國間ニ於テ手形ノ需要供給ノ關係ヨリ來ルモノニシテ時ニ或ハ順調トナリ或ハ逆調トナル從テ決濟ノ時期如何ニヨリテ其ノ價格ニ高低ヲ生スルナリ

爲替相場  
 順調  
 逆調

例ヘハ甲乙兩國間ニ於テ甲國ノ乙國ニ對スル輸出額カ乙國ヨリ受クル輸入額ヨリ小ナリト假定スレハ甲國ノ乙國ニ對スル債務ハ其ノ債權ヨリモ多カラサルヘカラサルカ故ニ甲國ハ乙國ニ對シ支拂ヲ爲スノ必要ヲ生シ乙國ニ對スル手形ノ需要ハ其ノ供給ヲ超エ從テ乙國ニ對スル手形ノ價格騰貴シテ手形金額以上トナルヘシ之即爲替相場ノ逆調ナリ反之順調トハ乙國ニ對スル輸出額カ乙國ヨリ受クル輸入額ヨリ小ナルトキハ乙國ニ對スル手形ノ供給ハ需要ヲ超エ從テ乙國ニ對スル手形ハ其ノ價格下落シテ手形金額以下トナル場合ヲ意味スルモノニシテ從テ此爲替相場ノ變動ニヨリ外國貨幣ノ價格モ亦變動ヲ生スルナリ  
 茲ニ外國ノ貨幣トハ貨幣同盟ニ於ケルカ如ク法律上強制通用力アル貨幣ニ限ルカ將タ法律上強制通用力アルノミナラス事實上通用ノ貨幣ヲモ含ムカ多少疑ナキ能ハスト雖モ前者ニ限ルヘキ何等法

律上ノ根據ナキヲ以テ契約自由ノ原則ニ依リ後者ヲモ含ムモノト解スルヲ正シトス

### 第十二章 無印紙帳簿ノ證據力

印紙税ノ支配ヲ受ヘキ證書帳簿ハ法第一條ニ明示スル如ク財產權ニ關スル得喪ヲ證明スル目的ヲ以テ作成セラレタルモノニ限ル例ヘハ契約證書ニヨリテ契約ノ成立效力ヲ證明シ通帳ニヨリテ其ノ取引關係ヲ證明スルカ如シ果シテ然ラハ若シ此等證明力アル證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セサルトキハ其ノ證據力ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ

明治六年二月布告五十六號前文ニ曰ク

「金子受取、金銀貸借、地所賣買、質入、書入、爲替請負諸契約等凡ソ人民互ニ諸證文、手形類、書附類ヲ以テ後日ノ證據ト可致品ニ付テハ自今別

紙規則ノ通相心得各其ノ書面ニ印紙ヲ貼用シ取引可致依テ本年六月一日ヨリ以後ノ證書ニ右印紙無之分ハ後日訴出候トモ取揚不相成候事」トアリテ當時若シ證書帳簿ニ相當印紙ノ貼用ナキ場合ニハ訴訟ヲ提起スルスルモ之ヲ受理セサリシモノナレハ結局證據力ナカリシモノト云ハサルヘカラス隨テ當時ニアリテハ本税ノ目的ヲ完全ニ達シ得タリシナラムモ其ノ後右規定ハ削除サレタルヲ以テ現今ノ解釋トシテハ假令印紙税ノ納付ナキ證書帳簿ト雖モ其ノ證據力ニ何等影響ナキモノト云ハサルヘカラス

蓋シ完全ニ成立シタル法律事項ヲ證明スル爲メニ作成シタル證書及帳簿ヲ單ナル無印紙ノ故ヲ以テ訴訟上無効トスルカ如キハ當ニ時勢ニ適セサルノミナラス脱税防止トシテハ別ニ検査監督ノ方法ヲ講スレハ足ルヲ以テ其ノ必要ナシトノ主旨ニ出タルモノナルヘシ

### 第十三章 檢 查

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿賣買仕切書送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

本條ニ所謂當該官吏トハ收稅官吏ノ謂ニシテ稅務署稅務監督局ニ在勤シ間接國稅ノ檢査ニ從事スル官吏ヲ指スモノトス故ニ本稅檢査ニ當リテハ明治四十五年一月勅令第一號ニ依リ制服ノ着用ヲ必要トシ又其檢査スヘキ區域ハ當該官吏ノ屬スル稅務署稅務監督局管内ニ限ラルルヲ以テ若シ之ニ反スルトキハ適法ナル檢査ノ執行ト謂フコトヲ得ス從テ受檢査者又ハ第三者ヨリ職務執行ノ妨害ヲ受ケタル場合ニ在リテモ刑法上特別ノ保護ヲ受クルコト能ハス收稅官吏ノ檢査シ得ヘキ物件ハ本條ニ示ス如ク帳簿賣買仕切書送狀トス而シテ帳簿ニシテ印紙稅ノ納付ヲ要スルモノハ通帳判取帳

檢査物件ノ範圍

ノ二種ニ過キサラルヲ以テ結局收稅官吏ノ檢査シ得ルモノハ通帳判取帳賣買仕切書送狀ノ四種ニ限ルモノトス而モ賣買仕切書送狀ニ對スル檢査ニ關シテハ別ニ何等ノ規定キヲ以テ課稅外ノモノト雖モ檢査スルコトヲ得ルハ勿論ナリ以上四者ヲ除ク證書ハ收稅官吏ニ於テ檢査スルノ權限ナキヲ以テ所持者ハ之カ檢査ニ應スルノ義務ナシト認ム斯クノ如ク檢査物件ヲ制限シタルハ其他ノ證書ハ多クノ場合當事者ノ秘密事項ニ屬スルヲ以テ是等ニ對シテマテ檢査ヲ執行スルニ於テハ秘密漏洩ノ虞レアルヲ慮リタル結果ナラム然レトモ所持者カ任意ニ提供シタル場合ハ之ニ對シ檢査ヲ爲シ得ルコト當然ナリトス

或ハ收稅官吏ノ檢査權能ヲ限定セル以上假令任意提供ノモノト雖モ檢査スルヲ得スト主張スルモノアラムモ元來本條ハ收稅官吏カ

積極的ニ検査シ得ル場合ヲ規定シタルモノニシテ任意提供ニ係ルモノト雖モ検査スルコトヲ得ストノ意ニ非サルヲ以テ任意ニ提供シタル場合ハ検査シ得ルモノト解セサルヘカラス

### 第十四章 犯 則

#### 第一節 脱税犯

第十一條 證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニヨリ税印ノ押捺ヲ受ケサルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

脱税犯ニ付解釋上難問ヲ生スルハ(一)犯則ノ主體(二)犯則ノ成立時期及(三)公訴時効トス

#### 第一款 犯則ノ主體

家族雇人  
ノ行為ニ  
對スル責  
任

脱税犯ハ印紙税ヲ納付スヘキ證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ法第六條但書ニヨリ税印ノ押捺ヲ受ケサル場合ニ成立スルモノナルヲ以テ其犯則ノ主體ハ納税者即チ證書帳簿ノ作成者タルコト疑ヒナシ然レトモ證書帳簿ノ作成名義者ト作成行為者トハ全然別箇ノ場合アリ例ヘハ家族雇人カ本人ノ名ヲ以テ證書帳簿ヲ作成シタルトキノ如シ斯ル場合ニ該證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ税印ノ押捺ヲ受ケサルトキハ何人カ犯則ノ主體タルヘキモノナルヤ多クノ租税法規ニ於テハ代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ税法ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰スヘキ旨ヲ規定セリ例ヘハ酒造税法第三十二條醬油税則第二十五條ノ如シ然ルニ印紙税法ニアリテハ之ニ該當スル規定存セサルカ故ニ一層解釋ニ困難ヲ生ス依テ個々ノ事實ニ付キ是レヲ解決スルノ外ナシ



證書帳簿ノ作成名義者ト作成者トヲ異ニスル場合ト雖モ本人ノ意思ニ從ヒ證書帳簿ヲ作成シ依テ脫稅シタルトキハ作成名義者ヲ犯則ノ主體トスルニ何等ノ疑問ナシ是レ其作成者ハ單一ノ機關ニ過キスシテ行爲夫レ自體カ本人即チ作成名義者ノ行爲ナリト認メ得ヘキヲ以テナリ

反之家族及雇人カ其意ニ反シ印紙ヲ貼用セスシテ使用シタル場合ニ於テハ作成名義者ヲ處分スルコトヲ得ルヤ一般刑法ニ於テハ原則トシテ行爲者其者ヲ處罰シ他人ノ犯罪行爲ニヨリ罪責ヲ負フコトナシ然シテ之ノ原則ヲ特別法タル租稅犯ニ適用セムカ到底其目的ヲ達スルコト能ハス故ニ假令其意ニ反シタル場合ト雖モ苟モ行爲者カ其營業ニ關シ營業主ノ爲メニ爲シタル以上其名義者ヲ以テ犯則ノ主體トシテ處分スヘキモノトス

之ニ關シ有力ナル名古屋控訴院ノ判決アリ其要旨左ノ如シ

控訴院判例

(裁判所構成法改正以前ノ判決ニシテ控訴院カ第三審トシテ言渡シタル判決ナリ)

## 事案ノ大要

雇人カ主人ニ告クルコトナクシテ主人ノ營業ニ關シ受取書ヲ作成シ無印紙ノ儘他人ニ交付シタル事件ニ對シ名古屋地方裁判所ハ第二審ニ於テ無罪ノ判決ヲ爲シタリ

其理由ノ要旨

被告名義人ハ雇人カ受取書ヲ作成シ無印紙ノ儘使用シタルハ毫モ關知スル所ニアラス且ツ印紙稅法中營業者ノ不知ノ場合ニ從業者ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フヘキ規定ナシト謂フニ在リ

右判決ニ對シ檢事上告ヲ爲シタルニ名古屋控訴院ハ此判決ヲ不當トシ全部之ヲ破棄シ事件ヲ岐阜地方裁判所ニ移送セリ

其判決ノ要旨(明治四十一年二月)

雇人カ營業主ニ告ケスシテ受取書ヲ作成使用シタレハトテ雇人ノ行爲カ委任ノ權限内ナル以上假令之ヲ營業主ニ告ケスト雖モ其行爲ハ適法ナリ其適法行爲ヲ爲スニ當リ印紙ヲ貼用セサリシ懈怠即チ不行爲ニ付被告カ責任ヲ負フハ取リモ直サス被告ノ懈怠不行爲ノ結果トシテ當然ナルコトニ歸着スル筋合ナリサレハ原判決ニ於テ其責任ノ有無ヲ判斷スルニ先ツ以テ雇人ノ權限如何ヲ確定セサルヘカラサルニ漫然該受取書ハ被告雇人カ被告ニ告クルコトナク作成交附シタルモノニシテ被告ノ干與スル所ニアラス且ツ不知ノ場合ニ從業者ノ行爲ニ付責任ヲ負フノ特別規定ナシトノ理由ニヨリ無罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ヲ免レスト云フニ在リ

故ニ假令營業者ノ意思ニ反シ且ツ不知ノ間ニ雇人カ作成シタル證書帳簿ト雖モ雇人カ委任ノ權限内ノ行爲タル以上ハ本法ノ制裁ヲ科スヘキモノナルコト明カナリ

法人ノ犯則

保險會社ノ代理店ノ犯則

法人ノ犯則ニ付テハ明治三十三年法律第五十二號ニヨリ代表者ヲ被告トス然レトモ茲ニ注意スヘキハ此場合ニ於テモ犯則ノ主體ハ代表者ニアラスシテ法人夫レ自體ナリトス故ニ法人カ本法ヲ犯シ稅務署長ノ通告處分ニ對シ履行セサルトキハ裁判所ニ告發シ裁判確定後尙罰金科料ヲ納付セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ法人ニ對シ強制執行ヲ爲スヘキモノニシテ假令被告人ハ代表者ナリト雖モ代表者ニ對シ執行スルモノニアラス

保險會社ノ代理店カ印紙稅法ニ違反シタル場合ノ犯則主體ハ左記照覆ニ依リ代理店トス

明治四十四年十一月六日東京地方裁判所檢事正照會

明治三十三年三月法律第五十二號法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタルトキ處罰制第一條ノ雇人其他ノ從業者中ニ會社ノ代理店ヲ包含スルヤ否ヤニ關シ各稅務署ノ解釋一樣ニ出テサル如ク被存候從

テ保險會社ノ代理店カ印紙税法ニ違反シタル場合ニ於テ會社又ハ代理店主ノ何レヲ處罰スヘキヤニ付キ疑義有之候條參考ノ爲メ貴局ノ御意見承知致度

明治四十四年十一月十四日主税局回答

御照會ノ件明治三十三年法律第五十二號ノ雇人其他ノ從業者中ニハ保險會社ノ代理店ノ如キハ之ヲ包含セサル義ト存候

法定代理人カ未成年者ノ財産事務ニ關シ無印紙ノ證書帳簿ヲ作成シタル場合ニ於ケル犯則主體ハ未成年者ナルヤ將タ法定代理人ナルヤニ付テハ種々ナル說アリト雖モ要スルニ法定代理人ノ行爲カ適當ノ權限内ナルトキハ行爲夫レ自體ハ法定代理人ナリト雖モ犯則ノ主體ハ未成年者ナリト解シテ可ナリ然レトモ法定代理人ノ作成シタル證書帳簿カ全然法定代理人ノ權限外ノ行爲ナルトキハ未成年者ニハ何等關係ナキコトハ勿論ナリ

法定代理人ノ爲シタル犯則

共犯

二人以上連帶ニテ借用證書ヲ作成シ無印紙ノ儘交附シタルトキハ如何ニ處分スヘキカ證書ニ付テハ一通毎ニ法定ノ印紙ヲ貼用スヘキモノニシテ連帶借用證書ナリト雖モ證書ハ一通ナリ故ニ一通ニ對スル罰科金ヲ連帶責任ヲ以テ負擔セハ可ナルニ似タレトモ決シテ然ラス元來犯罪ハ行爲ヲ罰スルニ在ルヲ以テ印紙税法犯ノ如ク印紙ヲ貼用セスト云フ消極的行爲ハ二人同様ナリ從テ本行爲ハ其ニ責任ヲ負ハサルヘカラス之レ民事責任ノ如ク損害其ノモノヲ賠償スルトハ大ニ其趣キヲ異ニスル所ナリ

### 第一款 犯則成立時期

印紙税ノ犯則成立時期ハ證書帳簿ノ作成ノ時ナリ  
作成ノ意義ニ付テハ既ニ説明シタルカ如ク證書帳簿調製ノ時ニアラスシテ之ヲ證據ニ使用シタル際ニ在リ故ニ證書ニアリテハ作成

ノ上相手方ニ交附發送ヲ要シ單ニ調製シタルノミニシテ自己ノ手中ニ存スル間ハ印紙ノ貼用ナシト雖モ未タ以テ犯則成立シタリト稱シ難シ故ニ商人カ多クノ受取書ヲ調製シ得意先ニ掛取りノ爲メ出張セムトスル際其店舗ニ於テ發見シタリトテ直チニ之ヲ犯則トシテ檢舉スルコト能ハス要ハ得意先ニ至リ金錢ヲ受取り其ノ受領(法第一條ノ財産權移轉)ノ證明トシテ交附シテ始メテ印紙税法ニ違反スルモノトス通帳ニアリテハ第一回ノ附込ミヲ爲シ取引先ニ交附スルコトヲ必要トス判取帳ニ在リテハ單ニ一回ノ附込ヲ爲スヲ以テ足り筆數及金額ノ多少ハ敢テ問フ所ニ非ス然ルニ判取帳ニアリテハ單ニ一筆附込ミノ際ニ發見シタルトキハ受取書トシテ處分スヘシトノ說ヲナス者アルヲ聞クト雖モ余ハ反對ナリ何トナレハ苟モ判取帳トシテ繼續使用ノ目的ヲ以テ調製シタル以上ハ假令一筆ノ附込ナリトテ其性質ヲ變シ受取書トナルモ

ノニ非スト信スレハナリ  
金高記載ヲ要件トスル證書ニシテ外國貨幣ノ員數ヲ記載シタル場合ニ其金高ヲ計算スルハ作成ノ時ニアリ其後ニ於テ爲替相場變動スルコトアリト雖モ犯則ノ成立ニ影響ナシ例ヘハ受取書作成ノ際内國貨幣ニ換算シテ金高五圓未満ナルトキハ課税外トシ其後検査ノ上發見シタル當時爲替相場變動シテ金高五圓以上トナル場合ト雖モ該證書ヲ犯則トシテ檢舉スルコトヲ得サルハ言ヲ俟タス

### 第三款 公訴ノ時効

#### 第一項 總說

公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トス(刑訴第一條)然レトモ公訴ハ一定期間之ヲ行使セサルトキハ時効ニヨリ消滅ス公訴時効ヲ設ケタル理由ニ付テハ種々ノ說アリト雖モ要スルニ犯

罪後一定期間經過スルトキハ社會狀態ハ回復セラレ之カ攪亂者ヲ罪スル必要ナキニ至リ且ツ強テ之ヲ處罰スルニ於テハ既ニ平靜ニ歸シタル現狀ヲ破壊シ却テ公益ヲ害スルニ至ルヘシトノ主旨ニ出テタルモノナリ故ニ犯罪後一定期間公訴權ヲ行使セサルトキハ之カ爲國家刑罰權ヲ實現セシムルコト能ハサルモノトス

### 第二項 公訴時効ノ起算點

公訴時効ノ起算點ニ付テハ刑事訴訟法第十條ニ公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ計算ス但シ繼續犯ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ストアリテ即時犯ト繼續犯トニ依リ其起算點ヲ異ニス而シテ印紙税法違反ニ對スル時効起算點モ亦本條ニヨラサルヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ茲ニ印紙税法ノ脱稅犯ハ即時犯ナルカ繼續犯ナルカヲ決定スルノ必要アリ

即成犯繼  
續犯

證書ハ作成ノ時印紙ノ貼用ヲ要スルヲ以テ作成ノ時貼用セサルトキハ直チニ犯罪成立ス故ニ即時犯ナルコトニ付テハ何等疑問ナシト雖モ帳簿ニ在リテハ即時犯ナリヤ繼續犯ナリヤ多少ノ疑ヒ存ス若シ即時犯ナリトセハ無印紙ノ儘使用中ニ發見シタル場合ニ於テモ既ニ公訴時効完成シ犯罪則トシテ檢舉スルコト能ハサルノ奇觀ヲ呈スルコトアルヘシ

帳簿ハ一年以内ノ附込ミニ對シ一定ノ印紙ヲ貼用スヘキモノニシテ印紙貼用ノ發生ハ帳簿作成ノ時ナルコト既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ作成後一年以内ハ尙印紙ヲ貼用セスト云フ不行爲カ繼續スルモノナリ換言セハ違法狀態ノ繼續ナリ故ニ帳簿ニ在リテハ之ヲ繼續犯トシテ該附込後滿一ケ年ヨリ公訴ノ時効ヲ起算スヘキモノト信ス實際ノ取扱ヒモ亦然リトス

明治四十二年八月二十一日九龜局照會

帳簿犯ニ  
於テ省  
議決定

明治四十二年一月一日通帳一冊ヲ調製シ相當印紙税ヲ納付セスシテ同日ヨリ同年七月三十一日迄使用シタルモノヲ同年八月ニ至リ發見シタルトキ公訴時効起算方ニ關シ左ノ二説アリ

甲説

犯罪ノ日即チ一月一日ヨリ起算スヘキモノトス

理由

印紙税法中所謂作成トハ第一條記載ノ證書帳簿ヲシテ印紙税ヲ納付スヘキ状態ヲ惹起セシムル行爲ニ外ナラサレハ苟モ一タヒ作成ノ事實アルニ拘ラス納税ノ義務ヲ了セサルトキハ茲ニ作成ノ日即チ適法ノ時期ニ相當印紙税ヲ納付セストノ單一ナル犯罪ノ成立スルト共ニ犯罪ノ終了スルコト明ナリ從テ爾後未納税ノ儘連續使用スル行爲ハ犯罪成立後ノ事實タルニ止マリ此事實カ違法行爲ナリトスルノ謂レナシ故ニ公訴時効ノ起算ハ作成ノ日即チ犯罪終了ノ

日ヲ以テスヘク使用終了ノ日ヲ以テスヘキ理由ヲ見ス

乙税

犯罪終了ノ日即チ七月三十一日ヨリ起算スヘキモノトス

理由

帳簿ハ他ノ證書ト異リ相當期間内同一種類ノ附込カ繰返サルヘキ性質ヲ有スルモノニシテ其作成ハ單ニ一回ノ附込ミヲ以テ終了スルモノニアラス一年以内現ニ連續使用中ハ即チ帳簿ノ作成中ト認メサルヲ得ス要スルニ最初ノ附込使用ハ作成ノ開始ト共ニ犯罪ノ成立ヲ告クルニ止マリ同時ニ作成ノ終了即チ犯罪ノ終了ヲ認ムルコトヲ得ス從テ時効起算ハ犯罪ノ終了シタル日即チ最後ノ附込當日ヲ以テ起算スヘキモノトス

從來ハ甲税ニ依リ前例ノ如キ既ニ公訴時効完成セルモノトシテ取扱中ニ有之候モ寧ロ乙説ヲ適用スルノ相當ナルヲ認メ候ニ付爾後

乙説ニ基キ取扱フコトニ致度

明治四十二年十一月二十五日 主税局回答  
本年八月二十一日附間第一〇五〇號照會印紙税法疑義ノ件最初ノ附込ニ於テ犯罪成立シ帳簿ヲ廢棄セサルカ又ハ之ニ印紙ヲ貼用セサル限リ公訴ノ時効ハ該附込後滿一ケ年ヨリ起算スヘキ義ト存候

### 第三項 公訴時効ノ中斷

公訴時効ノ中斷トハ既ニ經過シタル時効期間ノ効力ヲ消滅スルコトヲ云フ中斷ノ原因ニ付テハ刑事訴訟法第十一條ニ「時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス」云々同條第二項ニ「時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴豫審又ハ公判ノ手續止ミタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス」トアリテ中斷後ノ時効ノ起算ニ關スル規定ヲ明カニセリ

### 通告

印紙税法違反ニ於テ公訴時効ニ干シ刑事訴訟法ノ適用ヲ受クルハ通告不履行ニ依リ裁判所ニ告發シタル後ニ限ルモノニシテ其ノ以前ニアリテハ間接國稅犯則者處分法ノ支配ヲ受クルモノトス即チ同法十五條ニ「第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時効ヲ中斷」ストノ特別規定アルヲ以テ通告ニヨリ公訴時効ヲ中斷スルモノトス公訴時効中斷ノ効力ヲ生スル通告トハ稅務署長カ意思ヲ決定シ通告書ヲ發送シタルヲ以テ足ルカ或ハ到達シタル後始メテ效果ヲ生スルカ之又疑ノ存スル所ナリ  
惟フニ若シ前者ナリトセハ犯則者カ不知ノ間ニ通告タルノ結果生シ後者ナリトセハ到達ヲ要スルヲ以テ郵便其他ノ故障ニ依ツテ公訴時効中斷ノ時期ヲ異ニス然レトモ總テ意思ノ表示ハ相手方ニ到達シテ始メテ相手方ヲ拘束スルノ結果ヲ生ス故ニ假令通告カ行政處分タル公法上ノ行爲ナリトスルモ苟モ稅務署長ノ意思表示ナル

中斷後ノ  
公訴時効  
起算點

以上到達シテ其結果ヲ生スルモノト解スルヲ正シトス  
 時効中斷後ノ公訴時効ノ起算點如何刑事訴訟法第十一條第二項ハ  
 起訴豫審又ハ公判ノ手續止ミタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ストア  
 リテ時効中斷後ノ起算點ヲ明カニセリ然ルニ間接國稅犯則者處分  
 法ニアリテハ之ニ相當スル規定ナキヲ以テ中斷後ノ起算點ハ如何  
 ニスヘキヤノ疑ヒヲ生ス然レトモ同法第十五條ニ通告ニヨリ公訴  
 ノ時効ヲ中斷ストアル點ヨリ考フルトキハ通告手續ヲ終リタル後  
 ハ更ニ時効ハ進行スルモノト解セサルヘカラス故ニ通告不履行ノ  
 場合ハ科料ニアリテハ六ヶ月罰金ニアリテハ三ヶ年内ニ告發ノ手  
 續ヲ了セサルトキハ時効ニヨリテ公訴權消滅スルモノトス  
 尙注意ヲ要スルハ告發手續ノミニテハ時効中斷ノ結果ヲ生セス必  
 スヤ檢事ノ起訴アルヲ要スルヲ以テ告發ハ通告後告發ニヨリ檢事  
 カ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ爲スヘキモノトス殊ニ犯

告發ニ對  
スル注意

則者カ告發シタル檢事局ノ管轄ニ屬セサルトキハ其管轄ニ移送シ  
 タル後始メテ起訴スルモノナルヲ以テ告發ニ當リテハ是等ノ點ヲ  
 顧慮シ手續遲延ノ爲メ公訴權消滅スルカ如キコトナキ様注意スル  
 コト肝要ナリ

### 第四項 公訴權ノ消滅

公訴權ノ消滅ハ刑事訴訟法第六條ニ規定スル所ナリ而シテ租稅犯  
 ニ於テ之ニ關シ時ニ説明ヲ要スルハ(一)犯則者ノ死亡(二)會社ノ解散  
 (三)通告ノ履行(四)刑ノ廢止(五)時効之ナリ

### 第一目 犯則者ノ死亡

(一)犯則者(被告人)ノ死亡ヲ公訴權ノ消滅原因ト爲スハ刑罰觀念ノ發  
 達シタル結果ニシテ古代ニ於テハ死亡者ニ對シ公訴ヲ提起シ又ハ



通告前ノ死亡  
通告後ノ死亡

刑ヲ加ヘタルコトナキニアラスト雖モ近世ノ刑罰觀念ニアリテハ刑ハ一身ニ專屬スルモノニシテ犯罪者死亡スルトキハ刑罰權ノ客體ヲ失フヲ以テ公訴權ハ刑罰權ト共ニ消滅スルモノトス故ニ刑事訴訟法第六條ハ被告人ノ死亡ヲ以テ公訴權ノ消滅原因トナセリ租稅犯ニ於テモ通告前ニ犯則者死亡シタルトキハ公訴權消滅スルヲ以テ最早通告處分ヲ爲スコトヲ得ス通告處分後犯則者死亡シタルトキモ亦公訴權消滅スルヲ以テテ裁判所ニ告發スルコトヲ得ス一般刑法ニ於テ裁判確定後犯人死亡シタルトキハ其相續人ノ繼承スル財産ニ對シ罰金科料ノ執行ヲ爲シ得ルヤ否ヤ議論ノ存スル所ナリシカ明治四十五年五月十四日大審院カ積極說ヲ採リタル以來實際ノ取扱ハ遺産ニ對シ執行シツツアリ其根據ハ執行ノ手續トシテ則ルヘキ民事訴訟法第六編(強制執行)ニ承繼人ニ對シ執行シ得ヘキ規定アルカ故ナリ然レトモ通告處分ノ效力ハ一ノ行政處分ニシ

犯則者ノ死亡トノ關係

テ判決確定力ノ如ク確定的ノモノニアラス何トナレハ通告ヲ履行セサルトキハ裁判所ニ告發セサルヘカラスアルモノナリ故ニ犯則者死亡シタル場合ハ既ニ通告濟ノ罰科金ト雖モ其遺産ニ對シテ執行スルコト能ハサルヘシ

(二) 犯則者死亡ハ當該犯則者ノミニ對スル公訴權消滅ノ原因ニ過キスシテ他ノ共犯者ニ對シテハ影響ナキモノトス故ニ共犯者ノ一人死亡シタルトキト雖モ他ノ共犯者ニ對シテハ通告ヲ爲スコト妨ケス

### 第二一日 會社ノ解散

(一) 刑事訴訟法第六條ハ公訴權ノ消滅原因トシテ犯人ノ死亡ヲ掲ケタルモ法人ノ解散ニ付テハ何等ノ規定ナシ故ニ理論ニヨリテ之ヲ解決セサルヘカラス法人ノ解散ハ法人消滅ノ原因ナレハ自然人ノ

死亡ノ場合ト同一視スヘキモノナラム而シテ法人ハ解散ニヨリ直  
 チニ人格ノ消滅ヲ來スヘキモノテアラスシテ合併ノ場合ノ外ハ清  
 算ノ目的ノ範圍内ニ於テ尙清算終了ニ至ル迄人格ハ存續スルモノ  
 ト看做サルル(民法七十三條)カ故ニ租税犯ニアリテモ清算會社ニ對  
 シ清算人ヲ被告トシテ通告處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス之レ學  
 說判例ノ等シク認ムル所ナリ

(二) 法人ニ對シ通告處分ヲ爲スコトキハ其代表者ヲ被告人トシテ通告  
 スヘキコトハ明治三十三年法律第五十二號ノ認ムル所ナリ故ニ容  
 體上ニ於ケル犯罪ノ主體ハ法人ニシテ代表者ハ唯形式上ニ於ケル  
 被告人ニ過キス從テ通告後被告人タル代表者死亡シタルトキト雖  
 モ公訴權ハ消滅セス故ニ新代表者ヨリ罰金科料ノ納付ヲ受クルコ  
 トヲ得ルノミナラス若シ履行セサルトキハ新代表者ヲ被告トシテ  
 告發スルコトヲ得代表者カ通告後任期滿了又ハ其他ノ事由ニヨリ

會社代表者ノ死亡

資格消滅

資格消滅シタル場合亦同シ

### 第三目 通告履行

刑事訴訟法第六條ハ公訴權消滅ノ原因トシテ確定判決ヲ掲ケタル  
 モ租税犯ニ於ケル通告履行ニ付テハ何等ノ規定ナシ然レトモ特別  
 法タル間接國稅犯則者處分法第十六條ニ犯則者通告ノ旨ヲ履行シ  
 タルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシトアルヲ以テ租税ニ  
 於ケル稅務署長ノ通告ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付如何ナル  
 場合ト雖モ訴ヲ受クルコトナシ從テ公訴權ハ當然消滅スルモノト  
 謂フヘシ

通告履行ノ效力

### 第四目 刑ノ廢止

刑事訴訟法第六條第四號ニ公訴權消滅ノ原因トシテ犯罪後頒布シ

タル法律ニヨリ刑ノ廢止ヲ掲ケタリ故ニ犯罪後法律ニヨリ刑罰規定ヲ削除シ又全然法律ヲ廢止シタルトキハ該行爲ヲ訴追スルコト能ハス此原則ハ租稅犯ニ付テモ適用アルヲ以テ犯罪後發布セル法律ニヨリ其行爲ヲ處罰セサルニ至リタルトキハ該法律發布前ニ行ハレタル行爲ト雖モ通告處分ヲ爲スコトヲ得ス

### 第五目 時 效

公訴權ハ一定期間之ヲ行使セサルトキハ消滅スルコトハ既ニ前ニ説明セシ所ナリ(刑事訴訟法第六條)而シテ其時效ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年科料ニ該ル罪ニ付テハ六月ヲ經過スルニ因リ完成スルモノトス(刑事訴訟法第八條)

### 第二節 檢査拒否犯

檢査犯  
刑罰  
第九十  
條ノ五  
係

第十二條 第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス本條ハ收稅官吏カ帳簿賣買仕切書送狀ノ檢査ヲ爲サムトスル場合ニ於テ其檢査ヲ拒否シタル時ノ制裁ナリ  
刑法第九十五條ニ「公務員カ其職務ヲ行フニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」ト規定シテ公務員ノ職務執行ヲ保護セリ然ルニ印紙稅法第十二條ハ特ニ檢査拒否ノ制裁ヲ設ケタリ故ニ此等二者ノ關係ニ付問題ヲ生ス  
惟フニ本條ノ制裁ハ其刑罰ノ輕キ點ヨリ見テ極メテ單純ナル檢査拒否ノ制裁ニ過キスシテ若シ職務執行中收稅官吏ニ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ハ刑法第九十五條ニヨリ處罰セサルヘカラサルコト勿論ナリ故ニ單純ナル檢査拒否ニアリテハ其顛末書ヲ作成シテ所屬稅務署長ニ報告シ然ラサル場合ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ、告訴セサルヘカラス

帳簿證書  
毀損ト  
ノ檢査拒否

收税官吏檢査ノ爲メ檢査物件ヲ所持スルモノノ店舖等ニ臨檢シ檢査物件ノ提供ヲ命シタル場合ニ之ニ應セサリシトテ直チニ檢査拒否犯ニ問擬スルヲ得スト論スル者アリ其論據トスル所ハ元來收税官吏ハ檢査スヘキ權能コソ有スレ之ヲ提供セシムルノ權能ヲ有セスト謂フニアルモ余ハ反對ナリ何トナレハ檢査物件ノ占有ハ所持者ニアリ若シ收税官吏職權ニヨリ檢査セントシテ臨檢シタルニ占有者之ヲ提出セサルトキハ如何シニテ檢査スヘキカ元來收税官吏ノ職務行使ハ國權ノ行使ナリ故ニ檢査物件所持者ハ物件ヲ提出シ國權行使ヲ妨ケサル義務アリ從テ故ナク提出セサルトキハ檢査拒否犯ノ成立スルハ論ヲ俟タス但シ檢査物件ヲ或ル場所ニ持參スヘシト命シタルニ持參セサレハトテ直チニ以テ檢査拒否犯成立スト解スルカ如キハ當ラス

次ニ檢査前ニ帳簿證書ヲ毀損シタル場合ニモ檢査拒否犯ハ成立ス

ルヤ否ヤ本法ニ於テハ單ニ檢査スルコトアルヘシト規定セルノミニテ檢査ヲ受クヘシトノ明文ナキヲ以テ毀損シタル場合ハ本條ニ該當セサルモノトス然レトモ現ニ所持セルニ拘ラス湮滅毀損シタリト稱シテ提出セサルトキハ檢査拒否犯成立スルモノト信ス

### 第三節 印紙消印手續犯

第十三條 第九條ニ違背シタルモノハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

證書帳簿ヲ作成シ之ニ相當印紙ヲ貼用シタルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書帳簿ノ作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシトハ法第九條ノ命スル處ナリ若シ此ノ手續ヲナササルトキハ本條ニヨリ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處セラレルモノトス

印紙消印手續犯ノ公訴時効ノ起算點ハ如何ニスヘキカ  
 證書ニアリテハ作成ノ上印紙ヲ貼用シ之ニ消印セサルトキハ直チ  
 ニ犯則ハ成立スルモノナルヲ以テ印紙貼用ノ時ヨリ起算スヘキコ  
 トハ疑ヒナキ所ナルモ帳簿ニ在リテハ其起算點ヲ如何ニスヘキカ  
 ニ付キ疑問アリ印紙消印ヲ爲ササルノ不法状態ノ繼續スルコトハ  
 脱税犯ト同様ナルヲ以テ附込期間滿了後尙六ヶ月ハ公訴權ヲ行使  
 シ得ルモノト解スルヲ正シトス

消印ヲ爲ササル行爲ノ公訴時効起算方ノ件明治四十四年七月二  
 十四日仙臺局照會

印紙税ヲ納ムヘキ帳簿ニ貼用シタル印紙ニ相當消印ヲ爲ササルモ  
 ノニ對スル公訴時効起算方ニ左ノ二説アリ

甲説 印紙貼用ノ時ヨリ起算スヘキモノトス  
 理由

印紙ヲ貼用スルトキハ消印スヘキモノナレハ印紙貼用ト共ニ犯罪  
 ハ成立シ無印紙ノ儘帳簿ヲ使用スルハ犯罪ノ結果ニ過キス

乙説 帳簿ノ使用期間滿了ノ日ヨリ起算スヘキモノトス  
 理由

無消印ハ無印紙ト同ク一ノ不作爲犯ニシテ不作爲状態ノ繼續スル  
 間犯罪モ亦繼續スルヲ以テ帳簿使用期間滿了スルニアラサレハ犯  
 罪ハ終了セサルモノトス

明治四十四年八月十一日主税局回答

御照會ノ印紙税法中疑義ノ件乙説乃チ使用期間滿了ノ日ヨリ起算  
 シ可然ト存候

### 第十五章 犯則處分後ニ於ケル課税

證書帳簿ヲ作成シ之ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ税印ノ押捺ヲ受ケ

公訴時効  
ノ起算點

サルトキハ法第十一條ニ間擬シ脱税高ノ二十倍ノ罰金又ハ料料ニ處スルモノナルモ之ニヨリテ納税義務消滅シタリト謂フヲ得サルハ明カナリ何トナレハ處分若クハ處罰ハ其行爲ヲ罰スルニアリテ脱税ヲ償ハシムルモノニアラサレハナリ故ニ處分後ト雖モ右證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用シテ納税ノ義務ヲ果ササルヘカラサルコトハ解釋上當然ニシテ現在稅務署ニ於ケル取扱モ通告履行ト同時ニ脱税高ニ相當スル印紙ヲ納付セシメ該證書帳簿ニ追貼セシメ居ルヲ見ル故ニ納税者ニ在リテハ進ムテ追貼シ以テ納税義務ヲ果スコトニ注意スルヲ要ス然ルニ他ノ税法ニアリテハ納税者其義務ヲ履行セサルトキハ國稅徵收法ニヨリ財產ヲ差押ヘ之ヲ公賣シ以テ強徵スルノ途アリ又賣藥税法ニ在リテハ其第八條ニ收稅官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ(無印紙ノ類)發見シタルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ貼用印紙ニ

消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得トアルヲ以テ強徵ノ途アルモ印紙税法ニ在リテハ是等ノ規定存セサルヲ以テ強徵シ能ハサルモノト謂ハサルヘカラス

## 第十六章 印紙税法ト刑法總則

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

印紙税法ハ明治三十二年三月制定公布セラレタル法律ニシテ舊刑法時代ニ屬シタルヲ以テ不論罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ナル文字ヲ用キタリシモ其後明治四十一年刑法ノ改正アリテ斯ル文例ヲ改メタリ今新舊刑法ヲ比較シテ適用ノ例外ヲ説明セハ左ノ如シ

(一) 不論罪減輕 現行刑法ノ犯罪ノ不成立及刑ノ減免  
現行刑法ノ犯罪ノ不成立及刑ノ減免ハ刑法第三十五條乃至第四十

一條ニ規定セル所ニシテ(イ)法令又ハ正當ノ業務ニ因ル行爲(ロ)緊急防衛行爲(ハ)緊急避難行爲(ニ)罪ヲ犯スノ意ナキ行爲(ホ)心神喪失者及十四歳ニ滿タサルモノノ行爲(ヘ)心神耗弱者瘖啞者ノ行爲(ト)自首シタル行爲等ニ對シ適用スルモノニシテ舊刑法ノ不論罪減刑ニ該當ス而シテ印紙稅法ニ於テハ不論罪減刑ノ例ヲ用キストアルヲ以テ假令脫稅スルノ意ナキ行爲又ハ無意ニ爲シタル檢査拒否失念シタル消印手續犯タルト又十四歳ニ滿タサル者ノ行爲タルトヲ問ハス本法ニ違反シタルトキハ之ヲ處分スヘキモノトス

(二)再犯加重 現行刑法ノ累犯

舊刑法ニアリテハ自由刑タルト罰金刑タルトヲ問ハス總テ累犯ノ加重ヲ爲シタリシモ現行刑法ニアリテハ刑法第五十六條ニ規定スル如ク累犯トシテ加重スルハ前犯後犯共ニ懲役刑ニ限ルヲ以テ財產刑タル租稅犯ニ付テハ假令本條ノ如キ規定ナキト雖モ當然其適

用ヲ受ケス

(三)數罪俱發 現行刑法ノ併合罪

現行刑法第五十三條ニ「拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但シ第四十六條ノ場合ハ此限リニ非ス二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス」トアリテ一般刑法ニ於テモ科料ハ併科主義ヲ採リタルヲ以テ假令本條ノ如キ規定ナシト雖モ當然併科セラルヘシ唯罰金刑ニアリテハ刑法第四十八條第二項ニ二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付テ定メタル罰金ノ合算額以下ヲ以テ處斷ストアルヲ以テ一般刑法ニアリテハ二個以上ノ罰金ハ合算額以下ノ額ナルモ本法ニアリテハ刑法第四十八條ヲ除外スルヲ以テ併科セラル罰金ト科料モ亦同様併科ス

本法ハ以上ノ如ク刑法總則ノ適用ニ付例外ヲ認メタルモ夫レ以外ニ付テハ刑法總則ノ適用ヲ受クルハ言ヲ俟タス然レトモ連續シタ

印紙稅法  
第五十五條  
關係

大審院判例

ル數個ノ行爲ニ付テハ其性質上一罪トシテ處分スヘキニアラスシテ、違反行爲毎ニ罰科金ヲ科スルモノトス故ニ刑法第五十五條ノ規定ハ本法ニ之カ適用ナキモノトス(四、五、一七、大審院判決)

理由

印紙稅法ニハ之レカ總則規定ナキヲ以テ第十四條ノ場合ヲ除キ刑法第八條ノ明文ニ從ヒ同法ノ總則ニ遵據スヘク從ツテ連續犯ニ關スル規定亦印紙稅法違反ノ場合ニ適用スヘキモノノ如シト雖モ印紙稅法第二條以下ノ規定ニ徵スレハ各行爲毎ニ之カ刑ヲ課スヘキ趣旨ナルコト明瞭ナルヲ以テ連續ノ意思ニ基ク行爲ヲ總括シテ之ヲ一罪ト認ムヘキ刑法第五十五條ノ規定ハ印紙稅法ニ適用スルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス

## 第十七章 印紙犯罪處罪

舊刑法第九十九條ハ「己ニ貼用シタル各種ノ印紙及郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ニハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト規定シタルモ現行刑法ハ全然之ヲ削除シテ別ニ明治四十二年四月二十七日法律第三十九號ヲ以テ印紙犯罪處罰法ナル單行法ヲ公布セリ其概要ハ(一)行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ノ偽造又ハ變造シタル行爲(二)偽造變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若クハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ輸入シ若クハ移入シタル行爲(三)帝國政府ノ發行スル印紙其他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル行爲ニ對シテ懲役又ハ罰金刑ヲ科ス其詳細ハ同法ヲ一讀セハ自ラ明瞭ナルヲ以テ茲ニ詳說セスト雖モ特ニ本稅ノ研究



ニ必要ナル事項ニ付二三ノ例ヲ擧ケテ説明セムトス

### 第一節 印紙ノ偽造、變造、模造、再

#### 貼用ノ性質

偽造ノ意

一、印紙ノ偽造トハ印紙發行ノ權限ナクシテ真正印紙ノ外觀ヲ備フル印紙ヲ製出スル行爲ヲ謂フ

變造ノ意

二、印紙ノ變造トハ真正ナル印紙ニ變更ヲ加フル行爲ヲ謂フ例ヘハ五圓ノ收入印紙ヲ五拾圓ト變更スルカ如キ之ナリ

偽造ト變別造トノ區

變造カ偽造ト異ナル所ハ印紙偽造ニアリテハ原始的ニ印紙ヲ製出スルヲ云フモノナルモ印紙ノ變造ハ真正ナル印紙ノ銘價ヲ變更スルニアルヲ以テ真正ナラサル印紙ニ變更スルカ如キハ事情ニヨリ偽造罪トナルハ格別トシテ印紙ノ變造行爲ニハアラス

模造ノ意

三、印紙ノ模造トハ真正ナル印紙ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル印紙ヲ製

模造ト偽別造トノ區

造スルヲ謂フ

印紙ノ模造カ印紙ノ偽造ト異ナル點ハ偽造ニアリテハ真正ナル印紙ニ酷似スルコトヲ要シ模造ハ真正ナル印紙ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモ容易ニ真正ノ印紙ト區別シ得ヘキモノヲ謂フ故ニ印紙ノ模造ハ大正五年七月大藏省令第十八號印紙模造取締規則ニヨリ大藏大臣ノ許可ヲ受クルトキハ之ヲ製造輸入移入販賣頒布又ハ使用スルヲ得而シテ若シ許可ヲ受ケスシテ製造輸入移入販賣頒布使用シタル場合ハ印紙犯罪處罰法ニヨルニアラスシテ前記印紙模造取締規則ニヨリ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處セララルルニ過キス

印紙再貼用ノ意義

四、印紙ノ再貼用トハ一度使用シタル印紙ヲ再ヒ證書帳簿ニ貼用スル行爲ヲ謂フ然シテ再貼用ニニアリ一ハ一旦使用シタル印紙ヲ藥品又ハ其他ノ方法ヲ以テ除却シテ再ヒ之ヲ使用スル場合ニシテ

ハ一度證書帳簿ニ貼用シタル印紙ヲ剝キ取り其儘使用スル場合ナリ何レモ印紙犯罪處罰法ノ規定ニヨリ印紙再貼用トシテ處罰セラレル行為ナリ

以上述ヘタル點ニ付テハ検査ニ當リ充分留意シ若シ此等ノ行為アルコトヲ發見シタルトキハ聞取書又ハ顛末書ヲ作成シ刑事訴訟法第五十三條ニヨリ其職務ヲ行フ地ヲ管轄スル檢事ニ告發シ同時ニ其顛末ヲ所屬上官ニ報告スヘキモノトス

第二節 印紙再貼用ニヨル犯罪ト

脫稅犯トノ關係

印紙再貼用ノ行為ハ印紙犯罪處罰法第三條ニヨリ處罰セラレハ勿論ナルモ同時ニ此等ノ印紙ハ真正ノ印紙ニアラサルヲ以テ印紙稅法第十一條ニヨル脫稅犯ノ成立スルヤ論ナシ茲ニ於テ此等ノ者

想像上ノ  
數罪ナリ  
牽連犯ト  
ナリトナ  
法規競合  
ナリトナ  
然別者チ  
モノナリ  
ト看ルノ  
説

ノ犯罪關係ニ付問題ヲ生ス即チ検査官吏カ検査中印紙ノ再貼用ヲ發見シタルトキハ之ヲ檢事ニ告發シ同時ニ脫稅ノ點ハ租稅犯ナルヲ以テ稅務署長ニ於テ通告處分ヲ爲スヘキカ實際問題トシテ頗ル重大ナリト信ス即チ兩者ノ關係ヲ(一)想像上ノ數罪ト見ルヘキカ(二)牽連犯ト解スヘキカ(三)法規ノ競合ナリト見ルヘキカ(四)兩者ヲ全然別個ノモノナリトシテ取扱フヘキカ惟フニ(四)ニヨリ印紙再貼用ニヨル犯罪ト印紙稅法第十一條ニ於ケル脫稅犯トヲ全然分離シテ前者ハ裁判所ニ於テ處罰シ後者ハ租稅犯トシテ稅務署長ニ於テ通告スヘシト解スルモノアルモ元來印紙稅法カ其第十四條ニ於テ刑法總則ノ規定ノ適用ニ關シ除外例ヲ認メ居ル以上夫レ以外ニ就テハ當然刑法總則ノ適用ヲ受クヘキモノナルヲ以テ斯ル單純ナル解釋ヲ許ササルモノト解セサルヘカラス故ニ余ハ(四)ハ全然反對ナリ然ラハ(三)ノ法規ノ競合ナリト説ハ如何元來法規ノ競合トハ行為

カ數個ノ法條ニ該當スルモ性質上他方カ一方ニ排斥セラレル場合ヲ謂フ即チ特別法ハ普通法ニ勝リ箇別法ハ補充法ニ勝リ其他法規ノ吸收關係等ノ如キヲ指稱ス然ルニ印紙犯罪處罰法ト印紙税法トハ法規ノ性質上特別法ト普通法ノ關係ナク又何レモ補充法タルノ關係ナシ故ニ兩者ノ關係ヲ法規ノ競合ナリト説明スルハ當ラス更ニ(二)ナル牽連犯ナリトノ説明ハ如何牽連犯トハ刑法第五十四條第一項後段ニ謂フ犯罪ノ手段結果ノ關係アルニ箇ノ犯罪ヲ處罰スルノ規定ナリ然ルニ印紙ノ再貼用ニヨル犯罪ト印紙税法第十一條違反ノ脱税犯トハ其性質上手段結果ノ關係ナキヲ以テ牽連犯ナリト謂フヲ得ス尤モ之ニ對シ反對說ヲ爲スモノアリ即チ印紙税ノ脱税ヲ爲サンカ爲メ既ニ其效用ヲ失ヒタル印紙ヲ再ヒ使用シタルモノナルヲ以テ兩者ハ犯罪ノ手段タリ結果タルノ關係アリト説明ス然レトモ之正當ナル解釋ニハアラス何トナレハ刑法第五十四條一

項後段ヲ適用シ牽連犯トシテ重キ刑罰ヲ科スルハ犯人ノ主觀ニヨルモノニアラスシテ刑罰ノ性質上其手段結果ノ關係アル犯罪ノ處罰規定ナリ即チ學說及大審院ノ判例ノ説明スル所ヨレハ

(イ) 犯罪ノ手段トハ其犯罪ノ法定要件ニアラスシテ或ル犯罪ノ性質上其實行手段トシテ普通ニ用キラルル行爲ニ限ル

(ロ) 或ル犯罪ノ結果タル行爲トハ或犯罪ノ當然ノ結果タル行爲ニシテ其構成要件ニ屬セサルモノヲ謂フト

由是觀之印紙再貼用ニヨル犯罪ト印紙税法第十一條ニヨル脱税犯トハ其性質上實行手段ニモアラス又犯罪ノ當然ノ結果タリトモ觀ル能ハサルモノナレハ二者ノ關係ヲ牽連犯ナリト解スルハ正當ナラス然ラハ餘ス所ハ(一)想像上ノ數罪ナリトノ說ノミナリ想像上ノ數罪トハ一個ノ舉動ニシテ數個ノ結果ヲ生シタル場合ヲ云フモノニシテ刑法第五十四條一項前段ニ重キ一罪ヲ以テ處罰ス印紙再貼

用ニヨル犯罪ト印紙稅犯トノ關係ハ印紙ノ再貼用ナル一個ノ舉動ニヨリ印紙犯罪處罰法第三條ト印紙稅法第十一條ノ脫稅犯トノ二箇ノ罪名ニ觸レタルモノト云ハサルヘカラス故ニ兩者ノ關係ハ刑法第五十四條一項前段ニヨリ重キ刑罰ノ一罪ヲ以テ處罰スヘキモノニシテ印紙ノ再貼用ニ付キ處罰シタル以上最モ租稅犯ニ對シテハ通告スルコト能ハスト解スルヲ正當ト信ス

附 則

第十五條 此法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金額

以上ニ之ヲ使用セントスルトキハ其不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

附 則 (四十年三月法律第二十七號ニ係ルモノ)

本條ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 (四十年三月法律第十四號ニ係ルモノ)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

印犯罪處罰法 (明治四十二年四月二十七日法律第三十九號)

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金

額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ徵役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條 偽造變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ用ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ屬ス

第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條 偽造變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問

ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス  
官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

官沒ノ件

明治四十二年四月二十八日

大藏省令第二十八號

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ稅務署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

明治四十二年四月二十八日

內務省令第十三號

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ警察署長若ハ警察

分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ警察署長若ハ警察分署長ノ職務ハ樺太ニ在テハ樺太廳支  
廳長若ハ支廳出張所長之ヲ行フ

明治四十二年四月二十八日

外務省令第二號

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ帝國領事官カ裁判權  
ヲ行使スルコトヲ得ル地域ニ於テハ帝國領事官ヨリ命令書ヲ交  
付シテ之ヲ爲スヘシ

明治三十三年三月十二日

法律第五十二號

法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリ

タル場合ニ關スル法律

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務

ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ  
各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其罰則ニ於テ罰金  
科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓  
以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被  
告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテ  
ハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ完納セザルトキハ民  
事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ  
檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモ  
ノトス  
前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セ  
ス

大正十一年三月帝國議會ノ協賛ヲ經タル改正案ニ付キ參考トシテ  
茲ニ説明ス

一、信託行爲ニ關スル證書

信託行爲  
ノ意義

信託トハ財産權ノ移轉其他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ  
從ヒ財産ノ管理處分ヲ爲サシムル行爲ヲ謂フ、而シテ今回本法ニ於  
テ特ニ信託行爲ニ關スル證書ニ定額稅ヲ課スヘキコトヲ定ムルニ  
至リタルハ信託法ノ制定ニ伴ヒタルモノナリ

信託行爲ニ關スル證書トハ如何ナルモノヲ指スカ元來信託行爲ト  
ハ委託者ト受託者トノ間ニ締結スル契約ニシテ其目的ハ他人ヲシ  
テ財産ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルニ在リ故ニ本節ニ依リ課稅ス  
ヘキ證書ハ即チ當初ノ委託契約ニ關スル證書ノ外其契約ノ變更消  
滅ヲ證明スル爲作成スル證書ノミヲ指スモノニシテ信託行爲ニ基  
ツキ受託者カ財産ノ管理又ハ處分ヲ爲ス爲ニ作成スル證書例ハハ

第三者ト賃貸借契約又ハ讓渡契約等ヲ爲ス場合ニ於テ作成スル證書ハ素ヨリ他ノ一般證書ト同一ニ取扱フヘキモノトス  
次ニ改正案ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアルヲ以テ其ノ效力ハ勅令ノ公布ヲ俟テ發生スヘシ

現行印紙稅法釋義 終

大正十一年四月十日印刷  
大正十一年四月十三日發行

價二圓三十錢

著者

岩出芳三郎  
山崎久任

代表發行者兼

清水彌兵衛

印刷者

白井赫太郎

印刷所

精美堂活版所

不許  
複製

發行所

東京市本郷區千駄木町四十三番地

清水文社

振替口座東京三五二六五番

東京市神田區美土代町一丁目廿一番地  
東京市神田區美土代町一丁目廿一番地



元東京稅務監督局長 多胡敬三郎 閣下序文  
 東京稅務監督局事務官 田原和男 君 校閱  
 東京稅務監督局員 佐藤賢作 君 纂

忽四版  
**自加除稅法實例總覽**

紙數 九百頁  
 定價 金三圓三拾錢  
 送費 金十二錢

本書ハ國稅徵收法ヲ始メ地租、所得稅、營業稅、相續稅、通行稅、登陸稅、鑛業稅、ノ八編トシ各法文ノ下ニ法律、勅令、省令、訓令、通牒及ビ各府縣知事、鑛業稅監督局長、大藏、司法、內務、各省大臣、會計檢査院、主稅局ニ對スル指令、行政、民事、刑事、裁判例而シテ各省議決定、會計檢査院、主稅局ニ對スル指令、鑛業稅法令等一切網羅シ萬遺憾ナキヲ期シタリ本書ハ每年加録ヲ發行シ終始現行法令タラシム

日本稅務調查會編纂

**自加除稅法實例總覽**

四六判五百餘頁  
 定價 金二圓五十錢  
 送費 金十二錢

本書ハ第一編、酒造稅（附酒母麴取締）酒精及酒精含有飲料、麥酒稅、醬油造石稅、自家醬油、砂糖消費、織物消費、石油消費、賣藥、印紙稅、取引所、骨牌稅、兌換銀行券發行及ビ間接國稅犯則者處分法、行政裁判法ノ十篇ニ分チ間接稅ニ關スル者一切ヲ掲ケ其他ノ内容ハ右總覽ニ同シ

發行所

東京市本郷區千駄木町四三番  
 振替口座東京三五二六五番

清文社

最新刊

**法律熟語解説**

三五版紙數五百八十餘頁  
 定價 金一圓二十錢  
 送費 金八錢  
 ●●●●●  
 代前送定  
 金金費價  
 引送金金  
 換金費十  
 金二蕪二  
 錢十料錢圓

●日本法律研究會編

本書ハ帝國憲法ヲ始メ民法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、商法、ノ六法及是ニ關係アル法律命令及司法、行政法、非訟事件手續法、不動產登記法、戶籍法、ノ裁判所構成法、文官試驗規則、文官任用例、行政警察法、行政執行法、治安警察法、其他、市町村制等ニ主ル迄テ内地法律命令全般ニ涉リ熟語數萬ヲ蒐集網羅セリ編者ハ多年法律學研究ノ博士、學士ノ解說ニ成リ依テ法律學研究者文官試驗受験者等ノ法律經濟、法政經濟、學ノ精神ヲ獨修セムトスル士ノ好伴侶タリ

日本稅務調查會編纂

**現行營業稅法義解**

紙數 二百九十頁  
 定價 金一圓二十錢  
 送費 金八錢

最新刊  
 本書ハ大改正セラレタル所得稅法並ニ營業稅法ヲ掲ケ各關係令ハ勿論判決、一切ヲ網羅シ尚各種ノ計算例及ヒ書式等ヲモ揚ケアリテ稅務施行上如何ナル疑義難問題モ一見シ直チニ了解ス依テ司稅主務者ノ便益ノミナラス諸會社、商店其他一般人士モ須ラク座右ニ供セラレム事ヲ

發行所

東京市本郷區千駄木町四三番  
 振替口座東京三五二六五番

清文社

日本法律研究會著 (四月二十五日發)

# 改訂 刑事訴訟法解義

四六版四百頁内外  
定價金二圓五十錢  
送費金十六錢

本書内容ハ正確ナル立法ノ理由ト意義ヲ闡明ニ解説セルハ勿論其ノ精神ヲ判明ナラシメ  
各法文ノ下ニ改正理由ト法意トヲ註釋シ尙舊法ト新法トノ關係取扱手續等ハ一増明カニ  
説明セリ著者ハ多年法律學研究ノ博士學士ノ解説ニ成レルヲ以テ法律學研究ノ士、文官  
試験者等ノ好侶伴タリ乞一讀ヲ

日本法律研究會篇

# 改訂 刑事訴訟法正文

○菊半裁三百五十頁  
○本書ハ必ス前金ノコト  
○定價八十錢 送費六錢

本書ハ刑事訴訟法正文、未青年飲酒禁止法、違刑罪即決例、普通治罪法、思赦令、監獄  
法同作業規程、假出獄取締細則、道路法、職業紹介法、其他數目ヲ掲ケアリ校正嚴正價  
格廉携帶無便

## 發行所

## 清文社

東京市本郷區千駄木町四十三番地

振替東京三五二六五番

502
76

終